836
209
3

草草年録

鬼報録 外録

百十

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

鬼報外録

巻八

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

西村甲太郎忠武在陣日記抄

此記起自四月十九日至六月十四日所録大抵同此故日記盖同隊而其進退也但自此末稍有異同詳略抄其異且詳者補従之不足云

榎木山領
三佛生
高梨村

五月十日

一 八ツ半時頃ゟ此見ニ而家榎峠ニ而戦争相始り此先鋒上田尾州之倹ニ順く諸家ニ而戦ニ相成候 先川西浦侍村ゟ我吉村ニ一小隊ニ而高梨村へ七番隊士ゟ五番隊士大砲方ホ三佛生を本陣と定メ高田之小隊一組と大砲方長州之中隊あり我ホ者刈小千谷を経テ高梨ゟ参り見へ七番隊士川除之土堤下ニ伏し西見るを狙撃手を出し我ホ下高所ニ役人ニ参り榎本氏と一同ニ成り其夜時々巡邏致し不寝之所ニ篝火を焚ク賊時々打砲ス〇相言ハ赤白

十一日

一 明六時前ニ右役人ニ参り経テ川除之土堤下伏して終日其ニ而打放チ夜ニ入リ日付ニ而子程氏ゟ命を傳へて三仏生へ引上夜中巡邏ニ而川東へ本隊ニ候而打合夜

帝国図書館蔵
大正 9.5.27 購求
国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

又不止徹夜砲声不絶夜中時々巡邏半長刀ヲ佩テ屯所ヲ廻ル 所々篝火ヲ

五月十一日

一 今暁持佛堂ヲ等ヲ芝増七張打葺大雨ニ付屯所ヘ兵一害隊
詰合ノ処ヘ又々長田原雷助ト云人数一ニ引キ入ル此ヲ以テ
巡邏ヲ減ス 此ノ終日砲声不絶夜中細雨ニ双方ニ手疵ヲ

同十二日

一 今暁七ツ頃肥軍ヨリ会津ヲ始メ今日ヨリ敗走ニ付
トノ事ニテ長州ヨリ此村ヲ三小千谷ヘ引ク川東ニ居ル東隊ヘ加ワリヲ云ヒ
来ル千谷ヨリ報知有リ敗走ニ及ビ候ヲ以テ後ニ兵ヲ引キ揚ル
ヨシヲ云ヒ後仔細ニ及ビ候ヲ以テ長刀今日陣屋ヲ引ク

信ヲ不果遠慮ニ及ビ敗走ニ烏帽子ヲ着ル者側ヘ小姓ヲ望ミ死シ有リ又二人ニ敗十二三
人ニテ槍ヲ持ヲ云ヒ口ヲ後ヨリ突ク後ヨリ巡邏ヲ付ケ細雨ハヲ殺サヲ切ヲ抜ケ逃ル
同東ヘ引ヲ揚ル

同十四日

一 昨夜ヨリ巡邏雨陣営ヲ三佛ヲ村ヲ南ヲ
夜ヲ巡邏ヲ明ケヲ引ン巡邏篝火ヲ焚ク
ヲ巡邏ヲ明ケヲ引ン巡邏篝火ヲ焚ク

同十五日

一 早天ヲ細雨ヲ八ツ頃大雨夜晴夜ヲ大雨 暁天ヨリ砲声ヲ引サシ 暮ヨリ敗走
類ヲ奔砲ヲ 夕方ヨリ巡邏篝火ヲ焚ク

同十六日

一 早天ヲ大雨ヲ止ヲ敗走ヲ南村ヲ落ヲ報アリ依ヲヲヲヲ詞ヲ今ヲヲ

探るつる由故、村役を召つれて皆くして大谷を後つる由を賊前して
至八ツ時ごろ大谷より戦争有るく砲声頻りつる夜ごろ
まで加州兵化諸隊し兵孔大一万ばかり近ヶ寺云此日晴天
夜明ごろより迎撃篇大戒備を召つる
気付ける
おとの通りあらん

五月十七日 降雨

一戦争昨日ごろ略 夜衛兵を召つる
日ヶ九ツ時雲天

一戦争前のごとく大谷の手矢ノ砲声頻りつる
終日雨 午後ごろ 此夜賊撃名ゐ常々より多故夜
終夜雨 清和村ニ八九軒夜兵ごとく焼つる

同十九日 雲天 至七ツ前降雨

一戦争昨日ごとく大島口早天より砲声頻りつる 長岡仕
頃官銭を手ごとく今朝七ツごろ長岡放ちつるゆえ
川を渡り進撃とう故つるてみつる間もなく和平

一長岡放ちつるゆえ大工町ノ出大ノ辻ニ当ノ城ニ向つる東ノ郭迄敷地
平ごとく畑畑天ニ連る長ノ土地をも敷
一昨十八日長岡仕をも諸芸手負ひ担ノ長ノ川を東へ
渡りるとし川を渡る途中ニ而井入ヘ手約束ごとく
畑畑豊ごとく賊ニ而ハ賊ニ而ハ婦女ニ而ハ
今賊ニ勢ひてて手銃ニ而打ち者ども者その共手負ひ
和国ニおく多ノ事次更ニ不詳事ニ而芝居ニ
英気を発ニて明りて和水ニ賊を敗る長岡
一兵隊長ニ兵川佐ニ渡ノ大島口加ニ手投ごと二小隊ニ

物井ニて川を隔て戦ふ内猶ニ川を渡りて來り賊更ニ不急白川岸へ乗付ケ時ニ又々候ニ
撲戦ヲ相成り凡賊三十人程討止ヽ追捕せり賊家砲三発打せ不残東山へ敗走
致し候内 老僕ハ手負ニて内川井ハ割腹ニ及ヒ候由家宝ヲ不得 蔵王堂ニ大砲六
門有ル内物相ニ賊を尽く長岡敗走其上城下不残焼失ス殺を以テ支へ
支度を調ひ歩兵相集メ本郡を得て直ニ追出し者多ク有之候内ニ夜ニ入り陣所
幸ニ歩兵不残二十ケ村ニ分れ追出候内 夜ニ入る迄兵糧夜討備テ賊之夜襲ニ
兼而此之者組合と二ツ木分 宵夜ヨリ交代ニ詰る處多く賊夜半ニ至
退去候趣ニ御座候

五月二十日 屋敷御陣所之後異事無之

一 其後之事申候 十日ヲ経て長岡を出て之ハ 下陣を出ん之ハ 一ノ木村辺
迄陣取候 只今全見組川を渡り妙見村へ進ミ候て見物致し引揚之趣ニ候 御目付方故

一 右組川を渡り妙見へ付を右之陣ハ 長岡番所へ候て川辺へ出
て戦ひ候處 敵兵を退却 一ヶ所妙見之方へ追掛ケ 卅ヶ所長州内
参謀 白井小助と云ふ人 差図して 色々戦争致し 夫より味方陣ヲ入
陣を不残出張候 川辺へ出勢 長州勢之 金兜二ツ 其外
陣を乗取を見る下陣へ陣 全兜組 六ケ所ニ 旗を立 白砲二門 而日當二
門小銃一挺 其外 糧米百二三十俵も有之 此下陣へ入り 運送 少し
見る 屋形落之 妙見ニ 今度多く有之 大砲三門 有之候由

一 其後も夜襲致し 下陣之近辺 焼払ひ 陣所 見物致し候

五月二十日 使者

一 今日ハ 打備 不参

一 四ツ時 長岡ヘ 出陣 候 長岡 之 前 ニ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

之進田所之諸藩を集め長岡之進軍を防ぐの事ゟ

一 鯨雪之儀ゟ人之通ゟ

一 相談 板嶺 真一ゟ今日赤 一相言 新庄

近藤氏ゟ田島次男川ゟ使へ之を通ゟ之ゟ藩を

申出ゟ依ゟ次第ゟ 当年ゟ 先ゟ賊ゟ所置を通ゟ

し賊ゟ許ゟ多ゟ 六日ゟ市ゟ陣ゟ我何口ゟ氏ゟ

ゟ藩長手ゟ来 刻限ゟ迄ゟ故攻通ゟ右軍ゟ

ゟ藩別軍ゟ ゟ 仍而源ゟ

ゟ藩ゟ ゟ 一昨ゟ

ゟ藩ゟ ゟ 倒藩ゟ

ゟ藩ゟ ゟ 依ゟ

ゟ藩ゟ ゟ 仍而

二 五月廿二日夜ゟ降雨

一 四ツ半ゟ町富所ゟ細ゟ ゟ陣ゟ神田三ノ町

二 同廿三日晴天

一 朝ゟ ゟ 当戦士全兄ゟ一同

見舞ゟ村松ゟ境ゟメ三ゟ田進軍順次ゟ

陣場ゟ相成故ゟ我ゟ進軍ゟ出ゟ

長ゟ新町新保永田亀貝高高下浦瀬ゟ

一夜ゟ 見舞ゟ 浦瀬ゟ長岡ゟ

男子多ゟ 当所ゟ長岡湯堤九八郎ゟ

ゟ藩ゟ 薬ゟ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一長岡藩士河合三人傳吉休右衛門等色々話し込ん一刀にて両断す此時長岡藩大松杉尾長岡領へ逃込んと思ひ一万石余る澤の由聞及び追て三条へ行んと思ひ同藩勤王志ある者共迎に参り河井より国元へ帰るをくれ〳〵申ゆえ官軍に応ずる事を申ゆえ杉尾長岡領へ引取る後

一其後出て旅を稼ぐ町を通る長州と陣を次男に違ふ竜と賊と称し子弟此の家を町役人の由此二男が勤王志有る者ゆえ長岡等にて捕縛の由此因者ども七人とも斯云騒夜営地へ賊兵七十人計り

是より多分長岡前杉竜ゆえ三条へ通るゆえ今日我が泊る豪屋別家へ村松侯人数多く官軍先込ゆえ連ゆえ長之介手負追駆れに逃込ゆえ家内へ入込て暫かくれ居る事故竜ゆえ不実入込ゆえ官軍と一緒と思ひ込ゆえ

一三条へ賊二百人許居大砲十三門并備ゆえ分兵也

一今日当地着之兵隊長一小隊杉代一隊全く我士一班立番加州一隊諸家申訳し為所を固薩州加我中を加州村松侯長と我ゆえ今町口ゆえ案じ方能一門ゆえ

一諸家申訳し為所を固薩州加我中を加州村松侯長と我ゆえ今町口ゆえ案じ事ゆえ夜中村口見張ゆえ長ゆえ両人我ゆえ我士弐人宛

我人て交易い安んずれ

五月二十四日 昏夜雨 々ひ終日深し 我軍隊 昨日ら秋ハ堀湯ヨり初ちう支軍近て塔ら峯を越し秋澤ら東ハサら澤みち地
実近追作ちやくまもなく我方稍深入ちたる故ちもまと貸し皆
く干今一回、ひちの声を揚ケ追下故ハ安ら村迄行う
一 薩長砲の多き海ら戦ら秋澤ハ砲軍 此砲直一万ドルとも
迄ら鉄製ちう 称ふる
於新和野ら哨あら兵営を立ハ敵ら多を以て迫ら其攻撃ら甚ら
ちて有ら与ハ安とする也ら
一 陣吟ハ声を合し深夜兵書を七ツ汁を七そうじ の刻一ツ ろう眠ら

同二十五日 曇天

一 薩長ら半小隊ヲ以て後隊ヲ務ら兼ん戦迫ら秋村松ら方ニ行ま則両家ら数村松ら方ニ行候と
ちて行戦既ニ近く迫ら故両家ら勢揃也り則先ハ山ハヲ砲戦をちくら勝
敗ハ見依ら我兵ハ中道ら早速ニ追ちや、戦初薩長ら望七ハ我ハ、ち文ハ人ハ
方戦ら多ハ薩ら後ら家ら、秋澤を同ら方ニ
戦ら有ら故直ニ中道ら追ら頻ら、声を発しら半道計行ハ戦ら達ら戦道ハ
土手を築ら其薩ら引ハ出ら放流我兵撃ら追ら故戦死二ツ土ら取
又放銃我兵此ら悩ら井合薩長ハ山上を進も故ハ我兵ハ後ヘメり声を揚ケ
連発ら而又二ノ土塁を奪り戦又挙ら村ら中ら発砲此度(時)戦ハ向ら
井薩長ハ先右ら山上斜後ら撃我後ヘタル兵後ヘより干先ら進ニツ土ら下迫
進ミタル兵四方ら囲ヲ地ら有山ら事不能後ら公ら無を打ら薩長ハ公ら
薩七天朝を撃テ砲を止ヲ我ら秋兵又追ら事を得テ後迫水井ら

金井好吉等二人隊ニ先ン進ミ右松林ニあル二十間ニ四方ノ林ヲ中ノ賊ヲ人数迫出
テ此賊ノ地ニ陣列ノ機ニ乗ジ兵ヲ両手ニ分チ急ニ其ノ後ヲ迫撃ス中ニ賊モ迫ラ
テ下ル故ニ間ヲ二十間程ヲ隔テ六人ヲ右一人宛撃テ七ツ迄ニ不申
迫ル事ニ候ヘ共ニ賊ニ逃ル事ニ候

一 追撃ノ分賊両人ヲ有村ニ陣ヲ両中村ヲ見ナカラ

一 今ノ金友熊ノ松輝ヲ以テ陣ヲ固メ候心ナリ

一 落長ハ西坂村ヲ陣ヲ引揚ル我兵ヲ見ル有之村迫追止ノ行人ヲ云此西坂村
ヨリ約二村迄大凡四五丁ノ間水田ニテ其後ヲ出ヲ賊二三十人ヲ以行伏ヲ放流
シテ我ヲ迫追ヲ為ニテ我兵迫ヲ不ル故ニ落長ハ又西坂村ヲ陣ヲ引揚ル
ヲ以テ我兵ヲ待ヲ我兵ヲ先ニ引揚ル之ヲ落長ハ政ル引揚ル
ヘシ

一 我ニ陽ヲ彼ニ塔ヲ挙ヲ列ヲ家迄引揚仕ヲ精ニ境四方ヲ考ヲ用意シ
夕飯ヲ仕ヲ

五月廿二日 快晴 暑気ク然ニ御座候

一 二時ヲ夜二時ヲ計賊ヲ一時夜一時ヲ計賊ヲ時夜一
知候ヲ引ヲ寄ヲ待ヲ陣ヲヲ一両ヲ人ヲ偵ヲ

一 松澤ヲ党我有ヲ賊文知人面ヲ多ク加ル長州ヲ
リヲ之大砲ヲ一ツ見ル候ヲ迫ヲ一ツ有ヲ云 金友ノ西坂ヲ上山ヲ備ル
賊此口ヲ両人ヲ多ヲ見ヲ金友熊我ヲ
迫ヲ候ヲ事ノ我ハ終日山ヲ賊ヲ防ヲ無ヲ
一 落長ヲ人数多ク候迫ヲ両家ヲ兵員ヲ
一 二十四日ヲ二十五日ヲ二十六日ヲ此夜深ク寝
五月二十七日ノ晴天ヲ
一 八ツ頃ヲ見所ヲヲ多長岡ヲ領ヲ水引ヲ故ヲ
ヲ迫ヲ候ヲ三ヲ山ヲ

松澤 村ヲ口ヲ
村ヲ口ヲ
金友熊我
小屋山ヲ
ホ我

徳田

四ツ過ニ帰ル云

一今夕使を以て翁を迎平仙臺より官軍へ出兵云々申越

一夜四ツ過より雨降出ス

五月二十八日晴天

一今夜八ツ過より迚も大雨にて同夜四五人ハ兵営不寝番

煙有之ハ今夜ハ火ハ出ス云々

迚も寒くて凌ぐ有

一廿九日快晴

一九ツ過ニ起ル

一御列藩の人数中 帝家或ハ幕府ニ敵対ニ非ス

ト雖 共 大政官ニ弓引ク ニ ハ 許

を不受者ハ皆ク賊名を蒙ル故ニ列藩下ニ迫リ

一今夜ハ小雨降ル迚モ寒気ニ堪兼ル

有ル ニ 依テ 戦機大事ニ臨候ト事故寒ク

一昨廿八日より薬ニ用ル事ト申ス事ハ

右ハ傷ニ付テ各医師ニ御示シ

廿九日ニ付夜

当地ニ於テ官軍ニ申ス事ハ

一別紙ニ御渡シ申ス通リ

一張ル各国ニ農ハ家ニ入ル 武士ハ

ニ非ス下ニ有之ニ 即ち 帰順軍法ニ

贅言

木嘗

贅言

我宅有之故、石津一石出し、仁のうち五石出し申候

一 巫夜三度て杉伝を定之を巡邏う改む十人ていし候こと有之候ても
て巡邏杉伝、山田町七ツ下池田丁宮多杉多所大工ケ中多之

一 今朝ハ、与板うち先発声も不申畑も不ん承、ゆふ敵ハ与板宿ハ
ち多板、与板うち下うろこゆ支手長ク支持ち居候ハ賊退散ケ来ルこと
ゆふ夜し燈、与板自焼セ申ゆふ説也地名壱ケ所ハ不申候
不利うち与板迄引揚ケ申

一 七国寺裏ハ河合う多屋敷多人数伏勢仕候ハ弱て之形ニて近侍しの男し
ハ義住ケ村二十人ケ程うち多ハ落ちまし候

一 北陸道ハ敵ハ通り申ハ河合ハ江戸通ハ橋ハ計ニ多ハ焼ま之支候
河合ハ佐人ケ程ハ当朝十五方ニうち河合ハ三百石計ニうち打有之候

一 当家陣人数ハ敵ハ出ん十ニ人計ニ相違共首一ツ与陣ニ来ん人ケ程ハ有之

一 徳ケ多うち千兵衛ハ支続候し

一 旧悔旧恨ハ二用入候ハ、ハ

六月廿日快晴

一 石内村ニ在寺社村ハ長国ニ多離村うち以来旨ハ
みーうち

一 石内ハ七ケ村ハ金峰山ニ多惣社ニ有之大祭ニ野
猿ハ三百ニ余ハ出ハ来ル事ニ兵大書ニ載ケ事ニ候

当ニ驚ニうち

一 石内村ハ在郷ニうち寺領ニ石ハ石内ハ則ち領ニ候ニ付ニうち
うち多人ニ

安田 圭

和田 圭

安田俊吉

陶山若狭

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

小笠部与左　　あ家ゝゝ
中村惣兵衛　　中村治兵
栗田立右　　○八ゝゝ出左ゝ
十八人

○右ゝ人ゝ元九日夜官軍強徒ゝ変ゝ号ゝ
右長岡正義ゝ者共ゝ、数多ゝゝ号ゝ兵ゝ
支軍ゝ志ゝ通ゝ為ゝ、先ゝ人ゝ
一長岡首悪ゝ人名　　河合ゝ
一あの河合ゝ後添ゝ次第ハ、敵ゝ於ゝ
ゝゝを云あ田通ゝ云勝河合ゝ
ゝゝ事ゝ云あ田ゝ云ゝ

山田寛人　　鈴木重三
相山屋ゝ与　　神ゝ須屋ゝ
木村平兵　　安藤剛平

ゝ事を敷候ゝ、只今ゝゝを止ゝ
ゝ挙ゝを畢ゝ、止ゝ候ゝ、
岩ゝ改ゝ、成就ゝ、
気通我儕ゝゝ、
又利ゝ、ゝゝ出ゝ、
兄弟ゝ気随我儕ゝゝ、
ゝ立ゝ、
ゝ我儕ゝ、
ゝ我儕ゝ、
後長岡ゝ、

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

今と成ては見込も無く屋敷と云 其節時雨襲来しと云 右に付篭居て遁れ去れと云

六月二日 快晴

六月朔日赤澤戦
死者 旗持 与板村 多市
傷者 中村勝五郎 夫 種田村 忠蔵

一 昨日赤坂砂込之内ニ戦争有テ我兵赤坂ニ上山ニ陣を取 右ニ山ニ斥候をもし至右
ハ戦士 定テ六字ろうん 尤ハ山越仕候ニ而大凡五六人ニ而 然ル処朝五ツ過頃駒込ニ村ニ而申キ
ニ付砂利道を三番手隊出張警備を厳しく為有り尤ニ山ニ斥候遣シ候云賊
両人討取山へ登りて有り詮方引取りたると云 依之長州ヘ応援を乞 長州より直様
援兵 直様長州と同山越候方山へ登りたる処賊と出合て遂に退散せしと云
此時山越ニ而手深手を負ひ死去 夫人 是人見え不届ニ付き戦ひて見る
二日ノ
又賊手堀備へ出て放火仕候我兵山上の堀端ヘ長州兵ハ右道ニ而見付け我兵を
赤坂戦之
先と為長藩兵も賊を包て打取り是より賊遂に敗走せしと云 其両戦に付き戦ひに
賊三人生捕 与板村松村ニ而 此後此ニ付き

一 与板ヘ廻りし賊も今日ハ早朝より大砲打ち砲台を破りて夕刻落城 二番砲隊ニ而者
引揚を取りて長岡より来りし者云 賊出雲崎ヘ出る道を遮りしを既に出道余も
追撃したりと云

同三日 晴 快風

一 昨日杉沢村赤坂砂込辺ニ戦争 我山越之一隊 六番戦士共落長と共ニ大勝利を得
山中ニ此戦ハ接戦ニ相成 甚屍も有る打合せ程ニ案之賊三四十人も打捕 昨日
堀端ニ而戦ありしハ落長ニ而敗走すと云 又文納迄ニも戦争有之是加州藩
長と賊を敗走すと云

同四日 曇 快風

一 照明町尾州久郡長一郎警備 其右陣ヘ常宿一泊致候 宿屋事ニ而我兵の罷越
子一同集り有沙汰を待ちし処 右陣ニ人ヘ乗込ニ見届ケ之此事ニて又与板急込ニ参

第る支かして又久雄子達茶菓を出し酒肴
隊る頭や久雄子云此日春川に松代の隊や
土手ろ迄警て引取しかん市家ろ迄又
多付と云者有ろ是ハ武者ろ指ス又
中ハ此間ハ不審之何ろし百姓
有ろ家之と云実ニ苦ろ安ろ
一右之様ろ又春川ハ近ろ迄ろ鉄砲軍
沙ろ申出ス有ろ迄家捕ろ
角之ろ一安有ろ
六月五日細雨
一六ツ之鐘ヶ峯を過ろ上条ろ澤之
鍛ヶ峯ニ手板ろ回め有ろ澤田ニ兵屋ろて
一久留ろ迄ハ砂本寺ろ兵ろて
六月六日微雨
一手板ろ之ろ迄ろ今日ろ砲声
同七日晴天有風
一八ツ半より小鳥谷ヤ迄ろ砲声
一飯を喰い出発手板ろ迄ろ大ニ
同八日晴天
一村田村妙法寺日蓮流大寺之此ろ上ろ
ホ一日ニ中ニ見ユ
同九日雲天

一加州之士隊伍長相當洋今夜宴席於之而出兵士交代之為之屋下分手傳令官國之為相當之長官之下
一長官之士今日國元之墓表之為之人々し出兵之為之
一加州人云出兵七少隊之元文代五已然之為長官之下
引揚之為官員於之し而後之為ハ隊之
六月十日雨雨為之時
〃十一日曇雨雨
同十二日晴
一急ニ出雲守ゟ御當々村役人を以云今暁賊ハ新道之當々を繰入之

出雲路
久田堡畷戦

辛之為追掛之為兵而後之為而處之為夜明為之時
吟之為又先手之為ゟ報云昨
賊ハ久介候を為ゟ其時
スト云右接兵を守とひとしくみハ二十人程為追之為
兵士相人為之人サと七曇為之為を為ゟ
我兵ト合セて布列して井筒ゟ又後岸ゟ来る賊
の曇時之為ゟ我代為ゟ右ゟ音波村之方為ゟ
能く之為相へしと云軽為之為ゟ賊ハ此音波村ゟ山ニ廻ゟ
候ハ之人出ゟ為偏之井筒賊ハ三字人警之為
依加州之為又半ハ隊右之為ゟ
是公先ゟ賊後岸ゟ少ゟ分配し背岸を挟撃
さすハ我兵先鋒之為賊又相落依て防戦す

北征日記第二　西村甲太郎忠武著　武敏日記所遺漏且異説抄録

六月十三日　朝細雨昼後晴　出雲崎在陣営

一先達より衛兵弥増し昨日之戦争一同迎労致し故加州之兵と交替ニ出雲崎へ引揚
休営ニ而出雲崎ニ而ハ兵ニ同等ニ而ハ云ニ而ハ家作美麗ニ而ハ
一同郡代隊長之命ニ而此七里ニ而ハ兵士ニ而ハ
ことのほか高七日ニ而在所出ニ今日出雲崎
ニ而ハ分里見久米近三村鍛太郎此六人之ハ
坂口又治川崎源吉　七番ニ山峰義平八番ニ
一今日頃次浦瀬在ニ山越新子組之者一人ニ而
賊ホル二人弁候ニ而ハ村能ニ而在村ニ火ニ而
依之京勢ニ而ハ敵味方ニ而賊味方

と云呼はりなから刀を浴せ掛ける故、賊逃るゝ所を知て一人刀を抜てゐる四人を斬
殺したる又山越に向ひ山越も刀を抜き互に立合て賊の頸を切る賊も山越の左の腕を切る
賊は即死山越は腕に骨まて切られ程なく死すと云ふ一人も刀を抜て進む所を山越但
着賊の腹を打抜かれ然るに尚進み来る故に其尾を以て遂に打殺したりと云
此四人の者を初め同所の人々切廻り当所迄に山越の賊の首を取る時分来
ると云 実に広大なる事也 此事後年迄称美せしと云 其日吉備長州に
於て大勝利を得たりけり

梅太政官日五十六所出 高田藩八月十二日届書 初山越賊ノ為ニ傷 高田足軽池田善
太郎入替リ切合深疵ヲ受ケ死シ続テ斎藤喜一兵衛広瀬信吾二人ニテ賊ヲ討取リ
又一賊ヲ銃ヲ以テ打留タルニ喜市兵衛ニテ乃賊ノ両刀撹乱ヲ取リ又川参供為
タル 然之 此事其頃彼地御府ニ在ル人ハ皆ニ其時外ニ視ル人モ無ケレハ詳ナラス云ナリ

無ケレド両人(云所)本文ニ記スル所ノ如シ 山越広瀬ニテ其従卒 銃ニ打鉄ヲ引掛ケ構ヘ
居たりし 然るに御用の所なれは必す来るへき 故ニ直ニ従卒ヲ賊地ニ倒在ル所ヲ刀ヲ振廻シ故臺
麻ニ打殺シタル所ヲ従卒打抜シタリ一説ニハ又此方ハ一人ニテ山越ノ太腿ニ当リ
居りしも当所の四人有りしとも申せし此者ありしも先年後迄居るにて聢と知れ難き
ものゝ云善実ニ甚高名人例 元日戦ニ長州人ニ切掛られ首を取らん云を見て
後年手戦にて前後を窺ひ往々日信くいふ所
右に初めく義 之人切て窮之に居なる一因に其作先の近きる有り甚気こ
ゆり
後年之を見れは何年見に至る迄 説き告て一面見て書るに故にいひしや
何れ成るも其虚実ハ一の僻にて大将殊に厳長甚ケ戦死したる時に其母
に訴る義ニ有る事あり
又聞遊軍宇都宮敗其方に高数十四五人ある是も同く斥候に行き途ハ出賊に斥候を逢ひ
其一同伏して云近く探る時事として上申へしと宇都宮近て身探るとも其者共数に潜伏

一 朝五ツ前加州へ人走り来る云戦雨ニ乗潜り君て堅場下迫西五十人進み来る發砲ニて
あそこ〳〵報ニ故ニ同志を調ニ参候哉ニ
井ノ鼻と云処ニ稽古ノ為ニ備立ニ〳〵と依る苧勢ニて
其中ニ蹉ニ四人五人ニ而發ニ候ニ久兵村ニ而出行ニ候 又迫ニて云先ニ而兵ニ遣

七ツ半同笑岡迄休ニ〳〵ニ候ニ皆休ニて其後ニ名迄何ニ笑岡ニ着ニて事止ニ後
乗ニ不戦五人斗候ニ来ニて双方ニ一発不手本ニ而使ニ者ニ又ハ七発ニ而狼狽ニて
報告ニ而ニ事ニ而笑止ニ事ニ

一 當十四日晴ニ雪ニ而ニ於ニて斬首ニ〳〵ニ候ニ

同十五日曇ニ後晴 七ツ半ニ雪ニ在陣營

一 此朝今町ニ大ニ急ニ戦一旦ニ引ニ而ニ兵ニ砂ニ而ニ
迫ニ追掛ニ云ニ金沢勢敗ニ而

同十六日快晴 此日ニ事ニ雪ニ在陣營

同十七日晴 高ニ雲

一 市川付添四ツ半頃ニ右ニ通

別紙ニ通昨夜中軍ニ而迫ニ事ニ而ニ引ニ而ニ

ロニ至ル八賊夜討ノ備トシテ伝役ノ兩某ニ命シ暗號ヲ旅之事ニ定ム

一 同島氏病ヲ以テ尾ノ道ニ在ル和平日比也ハ其ノ浦瀬ノ佐ヲ発シ賊來ル位ニ守ル臺場ヲ攻來ル我ガ利ニ乗シテ其臺場ヲ捨テ引揚ル處ニ浜田ノ人数山縣ノ手勢ハ我戦士ニ引返シテ其臺場ヲ取返シ夫ヨリ田村ニ陣ヲ移シ大砲ノ鋳ヲ造ル又夫ヨリ

六月十八日 晴

芸州陣営ニ在

同 十九日 快晴

一 賊陣ヲ築クニ付テ迎ヘシニ其兵ヲ以テ山田ヲ試ミ来リ其後進軍先ツ久田村迄進軍スヘキノ令有テ則用意致シ既ニ草鞋ヲ着ケ出処ヘ申ハ津田氏来テ云我兵ヲ薩長ト共ニ舟路ヨリ賊ノ巣窟ヲ一衝ニ速ニ渡辺ヘ出テ返リト云依テ一同相談シテ云東国ノ兵船ノ不馴也甚迷惑ノ次第無限薩長ト熟和致シテ相成候ハヽ山地ノ方使ヲ遣シ津田氏ニ申シ談シテ一同舟ヲ右ノ銃中浦ヨリ発シ至極ニテ又思ヒ當リ最早配陣ス

> 按十九日之奥ニ記事如此
> 再雲浦ニ進ミ其ノ
> 各藩兵隊砲銃一
> 発セス戦敗日記
> 全ク小藤之書ニ之依
> 見ル太政官日誌
> 四十七所載高田藩
> 書ニ虚妄粉飾如彼
> 可謂欺誣之甚矣

ル人ヲ合々後ル舟ハ熟シタル一人ニシテ宜敷ト而船路ヨリ進ム夫ヨリ其攻撃ス楼ヲ以テ筧山之村岡ヨリ船ニテ進ミ是ヲ渡シ手ニテ上陸ス余ヲ先ニ久田村ヘ進物兼テハ薩ノ船之大凡三百人余ノ僅ナリ長ノ手勢我全隊ニ病人又ハ舟ニ不熟ニテ陸ヲ進ミ夫ヨリ余ハ船ニテ進ム既ニ我兵出雲路ヲ探リ宮ニ陣シ夫ヨリ第ハ来リ出帆ニテ至ル皆シテ出帆ス其後久田村迄ハ至リ不足道程ニテ不行到り最早山田迄ニ行テ賊ノ臺場ヘ打懸ケ引ヲ進ルニ寺ノ神実ニ一快事ノ物薩軍ハ薩州加州ノ田我舟ニ不熟ニ之久田村ニ着兼テ賊ヲ窺フテ皆休足ス其ノ時ニ薩州ノ尚進ミ既ニ加州ノ岸又ハ山上ノ臺場ヘ大砲或ハ小銃打懸ル賊ハ又大砲ヲ打懸ケ是ヲ人ハ松并ノ手ヲ攻メ小銃ハ多田ノ大砲ハ中発シテ其功ヲ為シ又兼テ船ハ小船ニ進ム長州ヤ我兵皆上陸ス今有テ依テ加州臺場ヨリ前ヘ上陸シテ一同久田村ニ至リ兵糧ヲ用ヒ是ヨリ先我

同勢都合六百人にて陣を定め夫より小千谷へ出て第二の村落を過て一同
る改て兵粮し支度して後尚山道を一里程進み今宵の泊り加州山手と云陣
長州手の人数并仙台藩も上ノ山より進下り通り有て直に進み其日遠山
る谷深く又茅多くして不能進故一人両村山上迄引揚る筈にて茅場有
へそれとも其儘にて在とて其夜子の刻頃より行
今日会津より砲声数発を聞ユ後ち賊逼りて来故一時も
六月二十日快晴　岩澤在陣営
同　二十一日快晴
同上

夜中迄も砲声を聞ク扨や賊来寄せ候哉と思ひ
地形を図り又一条策略ありと思ひ計其堂場数四ヶ所有り

六月二十二日快晴　此日も岩澤在陣営

一　同日も陣を狭く候て十人ヅヽ交代ニて陣ス

同日二日後半細雨　岩澤在陣営

一　昨日半蔵金南郷ニ戦争有之両隊敗走ス

一　此口朝ヨリ遠ク砲声

同二十四日遠ク細雨夜ニ至リ同　岩澤田村兵屋宅ニ陣ス

一　五ツ頃中條出張ス五ツ過繰出参ル処ニ高田ヨリ応援出来
て戌上条澤田ホ行キ迄ニて苦戦ニ方ニ応援ニ先澤田南東ニ山上ニ
砲発ス賊漸ニ引て戌ニ方ヨリ応援出来村ニ家一軒放火ス亡所ニ引て戌ニ方ヨリ応援出来村ニ

此日ヨリ岩澤仕仲之手ヨリ応援ニ行ニ付見

中軍本陣ヶ申寄ヶ舟直松ヶ向ヘ漕ヶ出シ彼方ヘ追ヶ中途ヶ不行出舟形ヶ御座
候ヶ我軍勢ヶ舟ヶ乗移ヶ候ヶ而ハ銃ヲ以ヶ打ヶ合ヶ候ヶ而ハ不叶ヶ故ヶ先加州ヶ
而ハ義ヶ墓場此処ヶ陣取ヶ加州ヶ而ハ墓場ヶ御座候ヶ而ハ不叶ヶ故ヶ先加州ヶ而ハ義ヶ墓場此処ヶ陣取ヶ
候ヶ而ハ不叶ヶ故ヶ先加州ヶ而ハ義ヶ墓場此処ヶ陣取ヶ

一 今朝ヶ向ヶ岸ヶ参ヶ人サ弐ヶ参ヶ昨日ヶ戦争ヶ多ヶ人数ヶ打ヶ取ヶ候ヶ
と云ヶ故ヶ我軍隊ヶ義士七人程行ヶ又義士ヶ四人ヶ

一 予ヶ向ヶ墓場出張ヶ候ヶ処ヶ夜四ツ時大手村ヶ火勢盛ヶ成ヶ候ヶ
戦場ヶ又ヶ忍ヶ参ヶ付ヶ敢不行此時墓場ヶ向ヶ新蔵ヶ大小銃ヶ打ヶ放ヶ候ヶ
ヶ家来ヶ云ヶ銘ヶ挙ヶ参集伊藤伊ヶ輔ヶ

一 本所ヶ御屋敷ヶ出張ヶ候ヶ処ヶ夜ヶ入ヶ候ヶ而ハ義士ヶ引揚ヶ候ヶ
ヶ新立引揚ヶ澤田ヶ云ヶ所ヶ陣取ヶ候ヶ而ハ義士ヶ引揚ヶ候ヶ
ヶ通ヶ云ヶ御触ヶ出ヶ候ヶ

一 義士ヶ人数追ヶ到着ヶ候ヶ而ハ義士ヶ隊長ヶ向ヶ岸ヶ参ヶ二小隊長ヶ向ヶ岸ヶ参ヶ
ヶ方ヘ今夜一隊探ヶ参ヶ向ヶ岸ヶ参ヶ探ヶ参ヶ又ヶ参ヶ探ヶ参ヶ

一 ヶ州ヶ隊長水野徳三郎ヶ家老ヶ向ヶ岸ヶ参ヶ久田村ヶ岸ヶ参ヶ
ヶ御ヶ参ヶ御ヶ参ヶ向ヶ岸ヶ参ヶ

六月廿五日 曇細雨

此夜澤田村ヶ向ヶ砲墓ヶ中ヶ在

一 今朝ヶ向ヶ岸ヶ参ヶ人サ弐ヶ参ヶ昨日ヶ戦争ヶ多ヶ人数ヶ打ヶ取ヶ候ヶ而ハ義士ヶ隊長ヶ向ヶ岸ヶ参ヶ
と云ヶ故ヶ我軍隊ヶ義士七人程行ヶ又義士ヶ四人ヶ

一 予ヶ向ヶ墓場出張ヶ候ヶ処ヶ夜四ツ時大手村ヶ火勢盛ヶ成ヶ候ヶ
戦場ヶ又ヶ忍ヶ参ヶ付ヶ敢不行此時墓場ヶ向ヶ新蔵ヶ大小銃ヶ打ヶ放ヶ候ヶ
ヶ家来ヶ云ヶ銘ヶ挙ヶ参集伊藤伊ヶ輔ヶ

一 本所ヶ御屋敷ヶ出張ヶ候ヶ処ヶ夜ヶ入ヶ候ヶ而ハ義士ヶ引揚ヶ候ヶ
ヶ新立引揚ヶ澤田ヶ云ヶ所ヶ陣取ヶ候ヶ而ハ義士ヶ引揚ヶ候ヶ
ヶ通ヶ云ヶ御触ヶ出ヶ候ヶ

一 義士ヶ人数追ヶ到着ヶ候ヶ而ハ義士ヶ隊長ヶ向ヶ岸ヶ参ヶ二小隊長ヶ向ヶ岸ヶ参ヶ
ヶ方ヘ今夜一隊探ヶ参ヶ向ヶ岸ヶ参ヶ探ヶ参ヶ又ヶ参ヶ探ヶ参ヶ

一 ヶ州ヶ隊長水野徳三郎ヶ家老ヶ向ヶ岸ヶ参ヶ久田村ヶ岸ヶ参ヶ
ヶ御ヶ参ヶ御ヶ参ヶ向ヶ岸ヶ参ヶ

六月廿六日 晴天

澤田村在陣陣営

一 本所ヶ御屋敷ヶ出張ヶ候ヶ処ヶ夜ヶ入ヶ候ヶ而ハ義士ヶ引揚ヶ候ヶ
ヶ新立引揚ヶ澤田ヶ云ヶ所ヶ陣取ヶ候ヶ而ハ義士ヶ引揚ヶ候ヶ
ヶ通ヶ云ヶ御触ヶ出ヶ候ヶ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

四兵屋うち一軒ハ同勢掌握ニ在此侭ニ打捨置候
一昨夜賊大寺を焼ら赤坂うち方ハ賊兵サー稜辺兵威を逞ニ張り盛ニ剣撃ち
夜発表するの筈ニ候事
一徳田佐ゟ
子其他仆候二人當地ニ葬ル半蔵金ニ而を受ケ家ニ篠崎源八田
嘉ゟ
吾妻二人ニ而長州ゟ七人ニ而死ト申ス敵ニ而ハ其筋ニ
而ニ聞ニ而ハ詳ニ不申記

六月廿七日 晴

一當十三日長州ゟ二小隊長岡ゟ繰込十四日半蔵金ニ而小隊高場十二両辺ニ一
小隊出張ニ而ハ兵ニうつせバ同僚十二両ゟ戦死ニうつし
一以通牒ニ而ハ賊ニ而ハ二十一日夜半福島村其外ニ而ハ賊兵ニ而ハ
地黒ニ一旦ハ報國隊ニ相記有之ニうつり執行ニ而ハ更ニ特陣ニ而ハ道通行ニ
而ハ不通途中ニ而ハ賊ニうつり奪ニ而ハ賊ニ相成ニ而ハ後ニ而ハ
右記ニ而ハ打留ニ而ハ有之ニ而ハ速ニうつり報ニ而ハ
左ニ同文ニ而ハ第一ニ

与板口
出雲ニ出張

一● 表 報國隊 裏ニ記ニ有之

ゟ諸出張ニ而ハ通ニ而ハ通ニ而ハ速ニうつり通却ニ事

○別紙記ゟ与板本陣ニ而ハ出先ニ而ハ同ニ而ハ出張ニ而ハ通達ニうつり
成ニ而ハ

辰ノ六月廿六日 六時三十五

加州 ゟ同 与板 薩州

ニ而ハ同ニ而ハ通却ニうつり

中条出張本陣

長州 松代 佐賀

覚

一三通　田状

右中條中軍より四つ半前刻お送申上

村上源之助

以四状之写ヲ我ヶ兵近郷ヲ焚ク事ヲ告ル

翁年より今日ヨリ下鑑お改雛形ヲ以テ写共ヲ鈐ヲ以テ一つらそ

辰ノ六月二十五日

行ク　御国中枝

雛形　令　枝地焼ク

六月六八日朝微雨昼晴夜大雨　澤田村在陣營

一今曉七ツ頃ヨリ陸藩木ノ茅峠ヲ越ヘ二子依ヲ経テ多重場ヲ通リ会津ヲ攻ル為ニ軍勢加ワル由ニテ則発向ヲ告ル

仍秋使ヲ者ヲ申誤ヲ報伝ヲ引揚テ陣ヲ移ス　共節ヲ告ル之後ヲ追ヲ駆ケ賊ヲ討ヲ勢ヲ視ヲ八実ヲ下ヲ木ノ茅峠ヲ越ヘ

一津田氏朝六ツ過ヨリ発ヲ砲ヲ声ヲ絶ヘ

一今ノ村ヲ砲声ヲ夜五ツ頃ヨリ止ム

六月七九日快晴　澤田村在陣営

一夜五ツ過ヨリ畠村焼七本四ツ頃ヨリ至ル澤田村下陣三四丁東南ノ方ヲ等ヲ女ヲ泣ヲ声ヲ故ヲ村民狼狽シテ賊ヲ夜襲ヲ思ヒ仕度ヲ為ヲ九報ヲ伝ヲ来ヲ間ヒ

其ヲ者ヲ為ヒ為ヲ男一人女ヲ子ヲ賊ヲ為ヒ為ヲ乱妨ヲ

ヲ思ヒ声ヲ揚ヒ泣ヲ事ヲ中軍ヨリ制ヲ禁ヲ

七月朔日曇七ツ過ヨリ大雨

一朝五ツ前中軍ヨリ通ヲ到ヲ探索村在屋ヲ人家俗体ヲ者ヲ

共日ハ弥猿臺中ヽ在

村上源之助

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

条ノ墓場巡覧シ終テ又々葉住発氏右松氏其他改革ノ人々等ノ人数日暮迄ニ
程モ有ニ付暮而ノ砲発ヲ繰ヤルト云ノ事ニ依テ右等ノ人数ハ近辺ノ
村々ヲ廻リ賊ノ而ノ人ニ村民ニ表ヲ作ラセ取ホドキ運ビ墓場ヲ築ク処
ニ引揚ル直ニ村民ニ表ヲ作ラセ取ホドキ運ビ墓場ヲ築ク処
処ニ実ニ賊衛ノ為ノ故ニ其衛備強ク厳ニ先ノ宗門人数ヲ本ニシテ夫ノ
施像砲二門薩ノ臼砲二門ヲ揃テ昼夜ノ別ナク砲声ヲ絶ス昼後ノ戦争初リシ而モ甚ク
徹夜砲声不絶雨ヲ衝ク終ニ一日猶ホ休ム夜ノ半過ル迄
兵カニ安寝ヲシテ居ル我墓場下ニ追々ニ
賊又ハ死体ヲ埋ル為ノ人数ヲ繰リ今朝火ヲ放チ
タテ昼前今町ニ火ノ手ノ上リシ故三像ヲ見ル為ニ兵隊追々ニ
ヲ下ル

七月二日 終日大雨 御屋敷下在砲墓中

一 終日大雨ニ而人数実ニ新発ヲ恐ル其ノ砲声十分ノ半ヲモ不出候
ニ申付夫ニ墓場直シ小屋ヲ急ケヲヤラ雨ノ
中ニテサール不寝今迄随分辛労ニ有テ此度初テ笑ヲ
一 終日御発砲声不絶夜間ハ厳ル

同三日 快晴 御屋敷下在砲墓中

一 鍋島ノ兵千人当地ニ着ル二付而ハ人数ヲ作ル
一 昨夜徹夜砲声不絶夜備厳ル 此日官軍一人即死一人負ル而ル二人即死ス

同四日 快晴 御屋敷下在砲墓ノ中

一 田代口ノ方ニ当ル火ヲ見ル
一 三国ノ馬道ニ山ニ墓場築ク而ル此場ヲ我ノ御屋敷墓場西北ノ方ニ築続ク

多り右墓場築き中、賊数多くへ又砲
一 大御總督様よりも別紙のごとく感状下賜
至左右ゟ全ク奴一統奮激勇敢有て故ごと
一ノ方ニ詰上高井上村ゟ勉励可ゟ致盡力の事

感状寫

今朝其ゟゟ書之

一 賊落去を急の時須二軒放火し又夜ゟ頃ゟ軒放火し官軍を引出し撃
ゟ策を為ゟ 〇多々砲声不絶

七月五日晴天

御領塚ゟ在砲墓中

一 今町口の場十二寫ゟ高二日賊勢ゟ
ゟ様ゟ成ゟ夫ヨリ多ゟゟゟゟ官軍差長ゟ
従賊ゟ行衛ゟ不知ゟ

一 夜ゟ過山田ゟゟ夢ゟ火ゟ家ゟゟ或ゟ村田ゟ処ゟ等を賊ゟ焼ゟゟ云 実ゟ不行
一 官軍多ゟ之破ゟゟ山ゟゟ街ゟゟ云ゟ砲声聞ゟ
一 多々砲声不絶 〇拙ゟゟ人斬死

七月六日曇天

在御領陣営

一 長州ゟ手板ゟゟ日ゟ浦ゟ賊巣窟ゟゟ街ゟ自然皆ゟ賊ゟ
多砲ゟ始中軍ゟ云ゟゟ通ゟゟ
一 昔ゟ近日追ゟゟ和成ゟゟ通ゟ
一 四半ゟ多ゟ村ゟ来村ゟゟ多ゟ砲声頻ゟゟ候ゟ其辺諸墓傷ゟ歳家ゟゟ
ゟ中ゟゟゟゟゟ多ゟ妻ゟゟ 又中軍ゟ
ゟ日ゟ賊ゟゟ新ゟゟ為ゟゟ
ゟ今ゟ備墓ゟゟ砲声ゟ間ゟ

一當二日勇隊十二隊ホド賊ト戦争ヲ為シ終ニ賊陣ヲ焼キ払ヒ退却ス和成ル

一夜四ツ半頃日向ヨリ大気ヲ見ヒ賊ホド土蔵ヨリ武器ヲ出シ又ハ百姓ヨリ焼ケル由　翌七ツ前ヨリ大半ハ大寺ヨリ砲声不絶

同七日雲天　　御経塚下在陣営

一昨日ヨリ追ヒ加州ヨリ兵三百人出張ヲ以テ前ヨリ着ノ兵ト合セ四百人ヨリ長国ヨリ百人ヲ此地ニ止ラシメ松岩ヨリ四百人ヲ鹿加ヨリ着ス

一朝ヨリ雨ヲ以テ昨日ヨリ砲声頻リニ聞ヘシガ九ツ前ヨリ休戦又夜四ツ前ヨリ戦ヒ止ム

昨日ヨリ賊ト戦ヒ賊又ハ我ノ為ニ討レシ賊ノ人数ハ不知

一七日薄雨ニ而ヨリ砲声頻リニ聞ヘシガ夜九ツ前ヨリ五ツ半止ム

馬草村両ヶ所焼キ官軍ヨリ放火ヤ又ハ賊次実否不詳

一昼夜砲声不絶夜整テ聞ヘズ

七月八日晴天　　御本営下在陣営

一當二日昼時ヨリ大雨ヲ以テ戦ヒ賊ホド勝利ニ而ヨリ砲声頻リニ聞ヘシガ終ニ其儘ニ而ヨリ攻撃戦ヒ為ス由ヲ以テ

本戸氏ヨリ聞ク　○今夜砲声不絶

同九日晴天清風　　同上

一先達而加州ヨリ兵三百人出張ヲ以テ長国ヨリ百人ヲ此地ニ止ラシメ交代ヲ以テ防戦ヲ為ス

一今日モ昨日ノ如ク砲声不絶

同十日快晴　　同上

一砲声不絶

高田屋嘉右衛門
宮日誌五十六番
出一死者十六人傷
者十四人実三十人

七月十一日快晴　　塚下在砲臺ニ中

一澤田村兵屋ニ来ル人ヨリ夕山雲ヨリ敵兵五百人着ニ由ニテ下陣ス

一村田村ヨリ山近ク官軍兵ヲ進ムル由ニテ久田村ヨリ鳥崎街道ヲ

一夜八ツ過ヨリ村又村ニ妙法寺ヲ放火ス天暁ニ至ル烈シク火勢ヲ

一砲声不絶

同十二日快晴　　塚家在陣営

一今朝栗山辺　原澳堀兵隊ヨリ村ニ移ル

当時ノ有様ヲ、見届ケ兵ヲ引揚ル

右ニ付昨日ヨリ夜ニ入迄ニ敵兵ヲ進ム

一砲声不絶

同十三日曇天　御経塚在砲臺中

一仁和寺宮ヨリ兵ニ着ヲ以テ敵兵長州ヨリ兵三小隊ヲ着長岡ヘ向ヒ

引揚ル兵追ヒ来ルトノ事

一長岡氏ヨリ報告書

越後賊勢猖獗ニ付人ヲ般軍務官知官事　仁和寺兵部卿宮越後ヘ

御発ヲ　命ヲ以テ軍監三等将士生左衛門権佐殿参謀次参謀軍務官権

判事松尾但馬當二十二日京都ヨリ出張ニ而江州ヨリ越前敦賀ヘ陸

合ヨリ人ヲ夫ヲ引ニ越後ヘ向ヒ私ヨリ人ヲ引ニ陸地ヲ進行新潟

迫日数二十日ヲ経テ二日着ニ二十日ニ軍務官判事

薩州ノ人吉井幸輔三百人余ヲ兵隊ニ十二ポンド砲ヲ入ル越砲二挺

為持出ス由ニテ

宮様ヨリ随行ノ兵ヲハ歩兵ヲ外ニ残ル六ツ隊ニ兵隊合ヲ

兵数六七百致着千人程も出兵当亦旧藩従来事由
豫州土倉俊郷助軍監をも　命ず依而
兵隊並別兵隊吉川肥前肥後等も兵を追て出張来北越へ相向ひ
小荷駄等人夫も兵力を以て挽ふこと
一隊長河原其他巡察近藤竹内両人久保代陣場見廻ること
警軍味噌二桝ふる
一陣巻在営陣中為見舞赤飯若干深二重ツ三ツ差入
七月十四日曇天　澤田村在陣営
一四つ半ころ加賀ふ兵隊交代来る中軍ふも今ふ我兵隊と交代来る由演述
それ共我兵隊それ迄ふ行ふ所決而来ふ故ふ夫ふ急ぎ
有ふ処ふ河原氏来ふ交書ふふる澤田ふ引揚ふ
交代ふ成ふ依て用意ふて交代ふ引取ふ
未刻営ふ帰ふと云
同十五日　澤田村在陣営

兵数六七百致着千人程も出兵当亦旧藩従来事由
豫州土倉俊郷助軍監をも　命ず依而
兵隊並別兵隊吉川肥前肥後等も兵を追て出張来北越へ相向ひ
小荷駄等人夫も兵力を以て挽ふこと
一隊長河原其他巡察近藤竹内両人久保代陣場見廻ること
警軍味噌二桝ふる
一陣巻在営陣中為見舞赤飯若干深二重ツ三ツ差入
七月十四日曇天　澤田村在陣営
一四つ半ころ加賀ふ兵隊交代来る中軍ふも今ふ我兵隊と交代来る由演述
それ共我兵隊それ迄ふ行ふ所決而来ふ故ふ夫ふ急ぎ
有ふ処ふ河原氏来ふ交書ふふる澤田ふ引揚ふ
交代ふ成ふ依て用意ふて交代ふ引取ふ
未刻営ふ帰ふと云
同十五日　澤田村在陣営

勿稟甲斐守伝代職之旨蒙仰候ニ付
而ハ
速ニ可罷下候以上

七月十六日　雲天　山雲崎大谷屋ニ泊

一今朝出船之処逆風ニ而
下陣向ニ炊出船ニ而村方ニ申候ニ付
同所ニ而休泊ニ有之候ニ付
其節ニ而ハ
以後御用ニ而ハ
但三人共味方ニ而ハ
右之訳ニ而ハ
一ニ而氏ハ
ニ而ハ

七月四日

十九

一栃山高ニ仁和寺宮四百人程ニ而
御着ニ付
御出ニ而ハ
一賊魁右ニ而ハ
一昨日長岡（女波原ニ）ニ而ハ
十人御家ニ而ハ
一中軍ニ而ハ
なとの事ニ
一北澤氏ニ而ハ
一長岡ニ而ハ
一薩州侯ニ而ハ

七月十七日　雲天

一郡内ニ而ハ
一賊魁右ニ而ハ
一昨日長岡（女波原ニ）ニ而ハ
十人御家ニ而ハ
一中軍ニ而ハ
なとの事ニ
一北澤氏ニ而ハ
一長岡ニ而ハ
一薩州侯ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 阿州侯ハ無餘義國事有往来ニ付七日在國ニ打合を以候帰京
ニ付之 御出ハ當十八九日頃京地出立歸國ニ而猶又上京之上ハ早速
軍兼一下向ニ而

一 右ニ付出兵之 御手下ハ九萬も早速参着ニ相成候

一 當二十二三日頃兵庫表ニ相成 天朝之軍艦御買上ケ相成一艘
ニ而右之薩長之艦と合せて四艘薩長ホ之人數ニ而越後之新
潟ヘ向出帆相成ト申事ニ付艘ハ既ニ新潟着帆戦争ニ相成右軍
大勝利ニ而同所も新潟を取上ケ右之軍艦ハ羽州庄内ヘ相向ひ申之
事ニ而海陸ゟ庄内ヘ迫り候甚

一 當月中旬頃ゟ會津ゟ間諜者兼而京都ニ潜伏いたし居候を御親
兵之者右夜又ハ召捕ニ相成候由七人も有之由ニて会津ゟ之者壹人ニ而候

様々ニ姿を替ひ居候由

一 仙臺上杉ホ会賊之勢ヽ懼シ因循会賊ニ通し候者も有之候ニ付不審とも有之
當二十三日仙臺上杉両郎京都者之下を御引上ニ相成候右ニ付仙臺藩儀人ハ
江戸領分を一下先引拂ひ候ニ而當月仙臺ハ朝廷御沙汰ニ而南部之朝廷ニ御
下

一 越後村上内藤藩士是迄在京之處御不審之筋當二十日頃京都ニ而追下
振ニ而候之由

一 當廿八日長州侯ハ大挙関東ヘ出行之 御出之事

一 當十五日江戸上野山内ニ屯集之賊徒御誅伐ニ相成実ハ八州ハ追々平定也
河あ心ちり事ニ而

一 薩長之近日北越実事ハ出張之者ま…ちやら、小手松用意致候よし
其譯ハ会賊ハまたこ迄く諸砲をも不用槍刀接戦をのみ用ひ候故ニ御座候

一 前箱田等諸藩ゟ追々徴兵差出ニ付其徴兵を以近日九門の警
衛ニ御手ニ相成ル事

一 當二十五日楠中将ニ祭ル ニ付 朝廷ゟ河原泽侍従ニ
ゟ御祭ニ而其社壇 御所ニ方ニ向ニあるを
を 朝廷ゟ御寄附ニ而宮ゟ卿諸侯諸藩ノ藩士ホゟ兵隊を出ス
ニ而御親兵徴兵ホゟ一大隊程出ル而御旗ヲ初メ地ニ菊ノ紋ヲ
第一大隊ゟ向ニ渡ル御旗ニ訪ヒ ニ仁和寺宮ニ幼名不詳ハ二方
御馬を大隊ノ中央ニ立ル事ニ(北行)ニ而ゟ進ム而ル 諸藩ニ土州松代伊東秋月紀
州吉川竹腰南部丹羽板倉(備中庭瀬)矢筈毛利黒田ホ其餘数藩総ニ十
余程ニ而ル 楠公湊川ニ討死ゟ五百ニ年ニ当ル始而盛大ニ祭典
を賜ハリ而成ル難有事ニ而ル 楠ゟ一族ニ而ル哉ニ
ニ而ル

一 今五日楠中将祭典式ニ兵隊運送ニ付別紙ニ而ル 御
御家ニ而ル数ニ而ル出張有ル而ル哉ニ而ル 一侍
当付ニ兵制ヲ楠公ゟ流義遵ル家ニ而ル 御出ニ而ル
ル而ル ニ而ル 一隊ニ而ル出練ニ付 御出ニ而ル
見ル事罷成ル而ル 諸家出兵格別不多勢ニ而ル
ニ而ル 一統神酒供ニ而ル 宣ハヤ止ニ
而ル

御用書状

五月廿五日

御用書家移秩禄巡状写

以巡状被仰付候間、無遅滞可被相廻候、
付札留り迄ハ不及逆行候事

十一月二十三日

第三十九号 紙 楠中将ト於東洋艦隊 神覧ノ後 御免ニ而可被返候事

右之通被仰出候間、御届ケ書ニ及ハス、
一右刻限ニ而諸人集会 御免ニ而可被帰候事
隊ヲ整練備 神覧ノ後 御免ニ而可被帰候事
但神祭諸式ニ者、支配ニ而取調可被差出候事
右之通 仰出候事 辰十月

弟格 薄田太吉

右ハ従辰刻申刻迄ニ而諸方集会ニ及候事

一右刻限ニ而諸人集会 御免ニ而可被帰候事
隊ヲ整練備 神覧ノ後 御免ニ而可被帰候事
但神祭諸式ニ者、支配ニ而取調可被差出候事
右之通 仰出候事 辰十月

弟格 薄田太吉

右ハ従辰刻申刻迄ニ而諸方集会ニ及候事

一金沢子生号指事

一仁和寺宮様柏崎ニ御着之節ハ御通行ニ而、二十四日長岡ニ向ハセ給フ由ニ付、士生組大参謀北越諸藩ノ形勢探索ノ為、長岡ニ向ケ出張ス。

同十九日於日隈雨 澤田村在陣営

一撰鋒書

一村上勢百人程 但侍ノミ 但同場鹿島ニ向ケ出ル所、是ハ与板迄木ニ着往来ノ百姓ノミ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 会津小砲隊弐百人程国境和田ゟ野浦佐兵衛上并国府ぬかたゟこまか道ニ
小島谷村本発寺上ニ屯集仕候

一 同佐川隊五十人程 但国境田之浦泰仁寺上ニ屯集仕候

一 米沢 弐百人程 但田之浦木之芽

一 在内百人程 但逸見張村国

一 島崎小田部萬戸明ヶ谷逸見ニハ不相分やニ御座候

一 馬廿日野浦 小島谷迄ハ進ミ過候様子ニ相見へ候由ニ御座候

一 木之芽其臺場土俵ヲ積ミ其ニ関（姫木字宇）を建狭間を明ヶ上ニハ三寸板屋根にいたし
其上を土俵ニ而固メ丈夫ニいたし其上ニハ青松枝をかさね置候人数ハ弐百人と云ニ
通り候多く在所ゟ様子ニ御座候ニ付麻島迄かけて荒野浦辺ハ多人数籠
廻り候ニ付三十人程にて相見え候由 村内家屋とも押廻り荒し雑子諸道具

家財嘴かけて其外地を合ニ取上ヶ言語ニ絶候義ニ御座候ニ付雑具
引上甚しき分ハ板戸はかり也ぬきとり候ものも有之由ニ而七福杯ぬすミ積
りたる由 右之分家ニ火を付村々ゟ荒野浦へ付火ニ候て清しく
日野浦ゟ頻ニ大打払ニ付清しき由 大砲ハ木之芽ゟ大撃麻島之内
ニ大挺ニ付而ハ本砲鋳ゟ置候由ニ御座候 夫人ハ下筋之者蒲原之在
屋共ゟ判ニ而法度之由 右之村々之人ニ志し御座候由ニ至候義ニ御座候 無御座候

上山以上

七月十八日

小島谷村 庄屋
源右衛門

一 北軍総督出馬陣ゟ御布告
兵部卿宮様當十五日柏崎ニ出馬陣之別紙之通り 伊東長門守宜敷廻
達之儀ニ而夫々向ニ而不洩様可被相達候以上
七月八日

御沙汰度　　河原右京

松平肥後守殿江　略

一 口勅使共御渡之旨有之今朝各藩者人宛参営之処前夕長岡左京亮
廻達有之付相澤龍太郎并ニ私諸藩一同　勅使壬生侍従西園寺殿
御列座ニ而　勅諚御読聞之上御酒肴下賜候事相済候頂戴仕
候旨御達左之別紙写之通被仰付内参謀長太郎左衛門殿以御達文今
出兵之上兵隊御賄方之儀は上者之上後別紙写之通人馬御献之
御沙汰書写申上候仍而此段奉申上候　以上
六月十八日　河原弥左衛門　河原左京
別紙数通之写ニ者未略徒之ニ付略

一 六月二十九日風聞書

一 六月二十四日奥州棚倉落城之由註進有之右者白川口より攻入候事
一 尚而 奥州平潟より海軍上陸一戦之上勝利泉之落城ニ相成候由赤黒藩多候之在所之
磐城平之方へ押来り確報無之泉之方相逃候由　棚倉之確報
一 薩州兵東下之内三小隊者去ル四日東海道沖津澤より甲府へ入越後路へ
尚廻りと申由
一 仁和寺宮様御進軍との事
一 六月十四日四條少将殿御出張護衛郡山嶋原人数三藩
一 郡山より八州之子細有之哉ニ而奥州平潟への兵食五千人前弐日分
御附届去ル二十七日四斗樽并ニ桶等之類陣釜之類竹之皮木札西荷等
不掛中ニ之買取候者之噺ニ申之候十五万枚を四百金計ニ而御取集
由兵人一日ニ枚づつとして拾万枚ニ而十日分と申事ニ

一長岡左京亮候ハ當ころハ人數弐千餘ト申まゝ日々何ら今日探索
行為ト　　本ヨ申氏ヨリ借受ル
一兼氣私一被寺泊ころ分當ころ入口いの花ま
七月二十日快晴　　澤田在陣営
一一昨四越前ら兵八百人長岡ら着ハ三百人今ハ澤田陣営ら
通行ま事ハ見ころ四小隊程ら小濱ら兵弐百人程ハ當ころ着
一昨日竹田ら子ハ分ら澤田ら一泊ま日ら
ま事ハ夜ら事地傳伝ま一昨日ら
一夜八ツ時中軍ら通ら賊兵夜襲ころ
ハ分ハ当張ら筈ら為ハ為ハ得ハころ
同二十一日快晴　　澤田村在陣営ハ

一別紙ら通ハ北陸ら諸侯ら會ハ為ハ連戦得勝利ら故ら
ら　　勅天慶ころ　　ハころ於ハ上格別ら勉強抽忠勇ハ実ら追撃ら
償功ハ為ハ　　ハころ
七ノ六

河原左京

ハ為ハころ

御名

甲府城代職ハ　　ハ為ハ敦信ハ近年多人数出兵追々連戦ら
ハ又ハら甲府城代職ら　　ハ為ハ敦信ハ近年多人数出兵追々連戦ら
有ら　　ハ為ハ事

御口上振

ハらら為ら格別ら勉励ハ付ら

朝廷ら

七月二十二日 快晴　澤田在北陣

一 今暁 二時ころより砲声雷の如し 因て手候として使を塚近往らしむ 夜ころより快晴 昨日の如く 午候に出行りまた何ごとの事なし

二十三日 昼 快晴 在澤田北営

一 監察使 岩村高俊 改め軍曹より 仙台に病気にて帰り 右の手に疵を受けしと 今日南部鳴海 湯本 久次郎 澤田村北陣に来る

一 此報 大日方孫三郎 与村 ころ 石倉義夫 子も南部湯本同様 五番にかかる 可なり疵を負ひ 殊に 仰角にて 改進党なりとの事なり

一 各藩 酒肴にて 整夜 七月十六日 より 七月十八日 まで 揭磯村 宮港に 海陸軍 迫入 各賊兵 悉く

七月十九日 晴 澤田在北営

一 松崎中澤 両軍艦 昨二十三日 揭磯村 宮港に 海陸軍 迫入 各賊兵 悉く 敗走 其機に乗じ 陸地進軍 ころ 若くは 条諸口 神速 追撃 ころ 皆

七雲隊 本陣

辰七月十九日

加州 越前 高田 松代 小濱 手校 長官 各中隊

二十五日 快晴 澤田村在北陣

一 夜九ツ時 大寺 ころ 高き火柱 見ゆる 又七ツ頃 長岡 ころ 高き火勢 変ずる 暁ころ 不止

一 今日四組 ころ 相休 等 ころ 有 ころ 檜本 丹 ころ 水井 ころ 出行たり

一朝七ツ半長岡ニ着ス大総督今以テ着セラレ故ニ岩下淀子馬ヲ銃ヲ峯迄迎行テ
待ツト雖モ終ニ来ラサレハ長岡ニ和通ヲ結ハルヽノ
ヿ

一七ツ半ニ長岡ニ着ヨリ小濱ニ行候梅田内ヘ矢ノ
如ク夜七ツ比賊ホク大勢通福島ニ火鉢ヲ開
西國寺ヘ大砲ヲ放ヲ聞ヨリ退ニ手ヲ支軍不利ヲ長岡ヲ賊ヲ落
ル由ヲ聞人ヲ走ラシヲ故大ニ驚キ直ニ長岡ヲ
我陣営ヲ通行セン故止ヲテ長岡ヲ
ヿ

一朝ヨリ家中ノ内ヘ行ノ子共ヲ其他行候ヘ人計リ長岡ヘ
ヲ聞氏ヲ安心ヲ
ヿ

一長岡ヨリ福島ヘ通ヲ聞ヲ再ヒ宿ヲ
ヲ不得夜ニ至リ長岡ヲ今ニ大
ヲ安心ヲ又多ク砲声頻ヲ聞ヲ候ヲ
ヿ

行候ヲ人皆帰ヲ武人出ヲ門ヲ
一行候ヲ後長岡ヲテ又ヲ
ヿ

七月二十六日快晴　　敵ヶ峯在陣営

一朝七ツ半村田ヲ着ヲ火ヲ焚ヲ

一昨ヲ長岡ヲ西軍ノ行候ヘ出ヲ人ヲ故ヲ又田中カ馬官事ヲ官
沢小次ヲ木ヲ村ヲ大嶋宮原辺ヘ行候ヘ行ヲ
一昨ヲ少宰ヲ後宮ヲ繁禮ヲ命ヲ
一夜六ツ過中軍本営通ヲ銃ヲ峯一発ヲ
濱ヲ人数ヲ前ヲ行テ見ル小濱ヘ人数
時四ツ
一昨ヲ六ツ半ニ長岡ヲ宝山寺ヲ着ヲ子ヲ候ヲ六人行候ヘ行ヲ
ヲ話ヲ盃ヲ

一昨夜長岡より多川を越して砲声不止故剣ヶ峯より
一夜九ツ時頃の系子と一同行き候て八田禮子澤田村へ引取
七月二十七日晴　剣ヶ峯在陣営
一朝暗く雨降る　新津常子行候て行き候て不帰
一長岡より夜に入り川を越て砲声又長岡市中より十日町
口を又西進すと云説を聞く
一昨夜吉田大助より達ふ敵人剣峯より東南へ逃走
一朝雨降ふるやまず　剣峯在陣営
一第参軍伊地知正治より来る廿四日又は廿五日頃東京
へ着の筈故に相談の為め又は御用の為め
一昨日出雲崎より関原へ行候て行き候て降長人六七人今朝より過此剣峯
を通る我陣場へ来り候人名左
長岡より榊を剪て衆説と同し　已下三條実美卿の同
一昨日九ツ前田中氏より急を告ぐ　一泊して
来る廿四日中氏より急を告ぐ
来る廿四日中氏より急を告ぐ
天気近急を報知に付き長岡合新町を又放火
中長岡町諸に火起る　新町に火起るは故誰の仕候
藏王に火起る　藏王と大木を挽て
多無時急故敵時分更に不分近く来る故誰と問て
此時松村作佐川老　渡辺弥太郎　甲長州　勝助　河邨寛敬　三橋六　樋口完

北征日誌　第三號　第二號　慶応四年戊辰七月三日至九月三日　松代藩　松代藩士　真田忠武著

七月廿八日　朝小雨　剣ヶ峯在陣営

一昨日出雲崎より関原へ行候て行き候て降長人六七人今朝より過此剣峯を通る我陣場へ来り候人名左
長岡より榊を剪て衆説と同し　已下三條実美卿の同
一昨日九ツ前田中氏より急を告ぐ　一泊して
来る廿四日中氏より急を告ぐ
来る廿四日中氏より急を告ぐ
天気近急を報知に付き長岡合新町を又放火
中長岡町諸に火起る　新町に火起るは故誰の仕候
藏王に火起る　藏王と大木を挽て
多無時急故敵時分更に不分近く来る故誰と問て
此時松村作佐川老　渡辺弥太郎　甲長州　勝助　河邨寛敬　三橋六　樋口完

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

廿三日 小山 新田 諒ス 依テ首級掲引ス 其辺着早朝ニ火発テ此火ヲ焼失多ク附タリト云
夫ヨリ御家来人数ヲ以生津渡川辺ヲ引揚ル 長州奇兵隊一番ニ渡野組加州兵ホト二団ホド着陣シ
テ二十五日七ツ頃河原格ヲ打行ヲ以世話ヲ為テ云 河原格本水井水大急ニ行キテ渡辺ヲ三備ニ
久保ニ逢ス 後ヲ隔ル小嶋貫池田ヲ打ホト二団十二人ヲ大町迄行候ニ行キツル処
ニテ多ク有ト云ヘ共不記 夫ヨリ又元ノ所ヘ引取ル長州加州一団大島ヲ引揚ル其意ヲ
田府ヲ寺ノ池タリト云 廿三日十川西ヲ作候ニテ多ク集ル事ヲ聞シ
テ夜明ルト云 二十七日若州ト交事ヲ実ニ
其実ヲ有ノ報トノ事ヲ打ホトニ越家ヲ通ル故実ヲ引揚テ一泊ヲ以
翌ル当ヲ荒行ヲ開ク処ニ
一 長岡引揚ル事 後聞ス実ニ長州加州ヲ始家ノ数ヲ長州ニ人ニテ実ニ苦戦ニ落城
隊一小隊ノ内ニ人 義ノ為ノ数ニ屋ヲ焼ホト隊ヲ百ニ人ヲ七人ヲ為ノ内ニ
初ニ人数ニテ其ヲ敵ト戦ヒ手死ヲ負ヒ人ヲ長人ヲ説ヲ能ク苦ノ
一 二十六日ヨリ敵ト戦ヒ手死森山ノ負ヲ再ヒ
一 隊長ヲ陣場ヲ通ルヲ聞ホトヲ実ニ二十五日実ヲ行ヒ云 廿六日
浦御重崎ホト敵修経過ヲ格別ヲ事ヲ
ヲ通行ヲ実ヲ故東山ヲ通ル辛ヲホト千谷ヲ実ノ原ヘ報ヲ云
一 大隅嶺 御家ノ修ヲ嶺ホヒヲ別条ヲ云
一 実原ヲ長岡等敵ヲ以使者ヲ長岡引揚ヲ節諸家ノ傷ヲ格別ノ奮戦ヲ感入ノ
ヲ勤労ヲ御ヲ実ヲ実ヲ付 先使者ヲ以ヲ十ノヲ実ノ事ヲ

廿九日 晴 澤田村ヨリ陣営

一 朝六ツ半ヨリ十日町迄二ヶ所焼上ヲ又新潟ヲ方ヘ向ヒ火ヲ天ヲ焦ヲ
一 九ツ頃長岡ヲ方ヘ当ヲ大小銃ヲ音頻ヲ有ノ候ヲ多ヲ有ヲ上ヲ作候ヲ事ヲ

見行候ハ、暫して而して来り長岡当古町辺より浦瀬之方迄一円火事なりと見ハ官軍
ハ攻立られ候事にて川西より敗り川を渡り長岡を衛んとせし迄の事之と云 官軍勝利なりしと云

一 翌六日未明深田へ引揚る

一 今日長岡之戦争ハ官軍始見附より攻立られ候て進んで長岡を乗取ママ村川西より官軍
川を東へ渡り候ニ付故其侭を入替進撃して所々大島辺にて暫く打合迄之見附迄進
ト四見附迄焼土ニ成り候と云 実は不慥之事なり

一 中軍本営ハ今日迄之戦ニ出兵之諸隊深田村より揚合いたし候て少勝実之以進軍之
用意いたし候処之旨之事之秘密之宿営過あり夜中ニ成故引揚候ハ、明朝と云事なり

八月朔日　御預隊在砲臺中

一 賊之妙野余程手向かひ相遂せし故金友子自ら旗を以て此隊進行し来 加州人云如何
これより八ッ時ニ有之候中ニ故深田より出る楼本氏又仲促に止可 賊兵不寄ニ放火し引揚る様子ニ候也

加州隊長ニ談し本之芽峠台場之様子を窺ハし 元人と談判に来り候所ニ新兵隊より四五人
罷り行候事を見る所なりと云 其男ハ多く賊兵 七国又新保之様子と申し参り候 藤屋ニ而来る之
機ありと無之を追手せらる へ送り越之事と依る 明日ハ相談せしとて 野田氏金児氏来り
談し候所御預隊ニ付園氏鳥本氏ハ宿陣致し入て既に方より園本氏と呼と御預隊候付ニ
而して賊兵之走るを追るべく八日進撃之事議せんと出行之処早朝之兵半隊本之芽之方ら
進み候 其故ハ来り外ハ新保村の中之新兵隊より賊之台場へ入り候故
隊長ハ半隊を以て進んでいると云候而猶香取ニ出て撃らんと本之芽へ行くに付加州越
前之兵ニ浦辺進ミ 加州之隊長ニ面会 其様子を聞て田之浦之辺迄行きて矢ハ先に
園氏鳥本氏ニ達し一同深田より見て 中軍から迄出て藤巻ヲ追撃せしニ然ル処
故岩原を峠の藤巻ハ行く途中ニ小島谷之前ハ達し 賊兵之様子聞ひて 去二十
八日水原ハ飛脚到来 新潟ハ官軍兵迄夫ハ水原洒屋其外ハ残一灰燼 翌日報告アリ

一故司馬公不用之而後已先三条公逝去今朝いかなる
る御事ぞ故と宣ふ折しも御使来り稲生の敵初而屋下可致迎撃と
云支公筆をまう置まもなく右の陣へ加勢の隊長二人馬乗
て行と云ふホタ飯を食ひ右の陣へ行きて其夜を守衛す

一神速に錦旗を松寿村に押立官軍方義隊出雲侯の陣営

一朝右の錦旗を二つ松の高き所に押立官軍方義隊近く進軍と今有之候引揚
引揚候をまちて追行き砲声を聞と道法二里余進軍す故高崎を
軍公通り有之弥近く進軍す故高崎を過ると松山を望て先山を攻

出雲侯本陣

土甚し一堅塁を築き有之官軍を防ぎ竹筒を通し散弾を打村まで
安軍之久保つて
宅を焼き払ふ故官軍方義隊一番乗と云れを三ツ
道二条に高き砲声轟ろき弥近く入口官軍方義隊一番乗と云れを三ツ
り此方義隊と云て近在に聞ゆ或る商屋に三男出て官軍と称せし
立ふと云まで入ると其まま加州藩兵徴兵出る陣れを打ち我下
陣れを出故二所て御細し打ち込ると云
寺をも陣とす此辺立ち神社ありて真言宗と云寺なる
神拝殿に於て神楽を奏ずる同断
一今二日高崎村に集合演舌山立方通ず角田舟通を見届て大迎撃
於て前後を通ずる事なし
出雲侯高崎村に陣営を張らる松寿村に錦旗を押立

参謀[illegible]
[illegible]
[illegible]

少死ト戦ヒ行軍数里ヲ経テ第一天堡ニ達シ暫ク休憩ス
余四里ト　八月三日夜ニ入ル

同四日至後雨

吉田村ニ陣ス

一松林数千ヲ経テ敵ノ伏兵ヲ警ス　今朝ト雖モ
一午八ツ過ルカ或ハ火ヲ放チ或ハ松木ヲ伐倒ス
一三里許行テ露営ス　人数悉ク揃フヲ待テ
一夜五ツ過中軍ノ通過有リ　明六ツ時ニ兵隊歩行
一夜五ツ過中軍ノ通過有リ　明六ツ時ニ兵隊歩行
改テ発途ス　当日通行ノ兵隊ハ
大隊ニシテ　リ四
大隊ニシテ　リ四

同五日至後ノ昼夜ニ五大雨　三條宿陣

一朝五ツ前村ニ入ル　当日ノ雨ニ為ニ滞留ス　依テ宿陣ス

一加茂ヨリ来ル兵隊ハ今迄敵ニ出会ハス不審ヲ発シ斥候ヲ
放シ行軍厳重ナリ
一村松ヨリ官軍（貞吉公子ヲ奉シ）ヲ迎フル為メ三里程ノ所ニ出張ス
（公子御滞ニ）
昨夜ハ宿ヲ取リ何ヒ之ヲ迎ヘント云フ処ニ密ニ実ヲ
聞ケハ
一長岡ヲ撃チ落シ官軍ハ悉ク退キ　領ヲ守ルノミニテ戦争ハ
無キ由ニ付安心ス（ママ）
一八ツ時頃見附近ニ進軍ス　今夜ハ三条ヲ三里過ニ宿陣ス
一夜四ツ頃先鋒ハ宮ノ下ニ着ス
晩ノ
今晩ハ三条ヨリ探索ノ為メ兵隊ヲ朝ヨリ村尾ヨリ探索ニ
ツカス

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

八月七日朝微雨　杉尾氏陣営

一昨夜の通朝出まで所々を杉尾の四方に着杯を入口を築き
る戦後ともし多く大を打ち込ませ数多く行ったとのこと　小幡屋陣営にて

一此杉尾を東山より先の我の方向と対岸村に似ること
引移り守備もよくなる由承ること

一此六日七ツ時頃村松へ突込み五戒村松と降参に出ること
一戦ホ不利ゆえ我を近くの吉ヶ平という大銃弾共ホ器械ホ残置と云銘柄
一つもうず

八日晴時々　杉尾氏陣

一三反ホ多原辺氏多く多し此を突ホ村松と降参に出ること
我へ追ひこむるもの

一去ん二十七日ヶ原須原より引揚ホ、ホ翁ホ
一此六日ヶ原須原より引揚ホ、ホ翁ホ

一今ヶ我津川我ホ押ホ国羽ホ稲掛ホ、ホ唐木峠ホ
八月九日晴　杉尾氏営

一此早朝吉ヶ平へ五隊押出ホ此方ホ
ホ

さし初ホ、ホ方ホ通ホ此方ホ
八月十日微雨　吉ヶ平氏営

岩大印　鈴木有宗
此方通朝出ホ須杉尾町ホ二人並通ホ事不能ホ隆路ホ通
ホ多ホ通荷ホ峻ホ険ホ所ホ、ホ人ホ二人並通ホ事不能ホ隆路ホ通
ホ長岡兵隊ホ加茂ホ帰ホ、ホ引ホ、ホ実ホ目見ホ当ホ、ホ
気ホ毒ホ、ホ

一杉尾町ホ津谷村ホ詰ホ半津谷ホ吉ヶ平村ホ又詰ホ半ホ吉ヶ平村ホ報

於ハ剣ヶ峠ニ敵後ノ圍ヲ破ラント村ヲ出ル此ノ圍ハ会津ヘ落ント
一賊ハ長岡ヲ破テ津川ニ会津ヘ落ント云
拳ヲ二手ニ定ル水原酒屋ニ放火ノ後ヲ截切ル故加茂迄ハ一先引揚ルヲ又此
八十里越ヲ越ル多ク此道ハ元ヨリ嶮ニシテ八里ノ間人家モ無ク大人数ノ通
路ニ不適ト雖モ賊ハ多ク兵器ヲ携ヘ且ツ険ニ拠ルヲ以テ我軍ノ不利ヲ
吉之丞ハ守衛ノ為ニ残ル
八月十一日 晴 吉之丞ハ在営
小宮山隊ノ人数ヲ以テ第一ノ関ヲ守ル村ヲ一ト廻リニシテ帰ル
吉之丞ハ守衛ノ為ニ加州松本ノ上ノ湯坂ヲ越ル
一会津ヘ向ヒシ加ノ松本ノ代ノ墓ヲ掘ルト云
一賊ヲ叶津ニ於テ破リ守衛ヲ変ジ一ノ関ヲ経ル義賊ト云ヘ共実ハ墓荒ヲ業ト
同十二日 晴雨 吉之丞ハ在営
四ツ谷小宮山組ト交代ス其後ハ墓荒ヲ捕ヘ
一皇軍白川落城ノ後ハ官軍ノ首ヲ七十程梟ス又百余ノ白川ヲ攻ル
ノ節賊首ヲ百本程梟ス其後ハ皇軍ノ勝利ヲ聞テ賊首ヲ梟ス
同十三日 晴雨 吉之丞ハ在営
一仁和寺宮様一ノ関ヲ破ラセラル三条ハ会津ヘ落ル
一会津ヲ落ル白川二本松ヲ経ル裡楽ヲ作ル
同十四日 朝雨 吉之丞ハ在営
一四ツ谷ヨリ追々兵ヲ招ク今日ヨリ四ツ谷ヨリ右山ヘ墓場ヲ移ス
作ル人ハ四ツ谷ヨリ二十四
右ノ日ヨリ四人ニテ一ノ夜交番ニ当ル

八月十五日晴　川石山ヶ砲台中ニ在　明月清光興味深

同十六日大風雨　吉宇在営　朝文代ル子境

同十七日降雨　同十八日降雨　同十九日朝雨ニ後晴　朝青[illegible]

同二十日曇適細雨　吉原氏営

一 朝文代ル子境ニ七ッ半過明日村松近進軍ニて今有り

同廿一日快晴　尾中村発陣

一 同通ニ過り朝五ッ過吉田ヶ二手をユニておそ[illegible]ニ兼ヶ病院ニ庚郎ニ逢て[illegible]間ヶ温泉
左手ヶ指頭[illegible]傷ヶり　夫ヶ外蓮谷ニ云ニ郎氏ニ逢　蓮谷ヶ二里余向ッ森町ヶ半道程
ヶ家ニ近称村と云所あり此所ニ五十嵐川ニ掛ル橋あり佳景絶妙実ニ仙境ともいふへし
思ひ[illegible]森町ニ而昼飯を喰ヒ夫ヶ広峠駅ニ至り昼[illegible]村ニ夕七ツ半ニ着る道程
七里余ト云　宿ハ宝山寺徳光出の宿ニ宿を

同二十二日曇天　村松城下正福寺ニ宿営

一 朝五ツ時萩黒出立ニて村松ニ向ひ須賀ニ正福寺ニ着陣とせ

一 隊長も昨日三条より軍加茂ニ泊ニ一泊今日正福寺ニ而昼飯夫ヶ五泉と云所近ニ而[illegible]
日影ニ動ヶ本隊ニ而[illegible]

一 村松ハ世子の[illegible]ニ世子ニ而勤王ニ而同中ニも[illegible]余も[illegible]故ニ[illegible]
[illegible]中ニ而[illegible]近ニ寛大ニ[illegible]と[illegible]裁決ニ[illegible]

一 津川口ニ而戦争[illegible]一昨日[illegible]津川も官軍ニ[illegible]近ニ何と[illegible]
戦争有て敗死石[illegible]敗不記

此條依取石間ニ而[illegible]破ルヲ誤ナル
ナラン津川ハ未破ナリ

一 新発田村上ニ而[illegible]戦[illegible]

一 [illegible]ニ而[illegible]仙[illegible]

同廿三日曇適ニ細雨

一 夕七ツ過五泉迄進軍之命有之ニ付村松を立て夜五ツ半過五泉へ着隊長ハ渇平
[illegible]殊之外[illegible]馬場巷[illegible]一宿候

一 此夜[illegible]之[illegible]火[illegible]澤ハ五向[illegible]軍[illegible]して津川迄[illegible]
[illegible]火[illegible]

一 坂川組之[illegible]居赤谷と云所ニ[illegible]軍之[illegible]

一 暗號 山谷 合旗 紅白

八月廿四日 晴天 笹岡宿陣

一 朝四ツ時五泉[illegible]を立て水[illegible]屋[illegible]して[illegible]田[illegible]中島[illegible]昼飯
を食し夫ゟ水原へ廻り[illegible]今日市[illegible]去月二十七日此處ニ戦争あり[illegible]
[illegible]兵[illegible]一[illegible]天領[illegible]當四月[illegible]
[illegible]水原ゟ笹岡へ七ツ時半[illegible]屋[illegible]下陣と成

同二十五日 快晴 山田驛宿陣

一 朝五ツ時頃笹岡を立てサー行く所ハ新發田へ行く道と五十公野へ行く道と[illegible]道有り
新發田ゟ廻りて[illegible]道程[illegible]故ニ同相談して[illegible]物ハ五十公野へ遣し一同新發田へ
行[illegible]後[illegible]仁和寺宮様[illegible]
田此新發田[illegible]夫ゟ五十公野[illegible]山田ニ七ツ時過
[illegible]陣と

一 村上ハ十二日官軍[illegible]中[illegible]戦争[illegible]二十
三日[illegible]戦争[illegible]米澤[illegible]

一 新發田[illegible]三月上旬[illegible]會津[illegible]一同[illegible]同月[illegible]
[illegible]人[illegible]五十人程五十公野[illegible]六月[illegible]七日[illegible]
[illegible]二万人程新發田[illegible]下迄[illegible]五十

国立国会図書館 タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

公務を放火し今又赤谷へ引取中山村へ基場を
築き在り故新発田より官軍を待受大早々如斯雨発ゝ
ゝ有之松ヶ嶋新潟へ上陸せり故得ㇾ共二十七日百五十人程山内村迄出兵せし
と云夫ゟ中山村の内へ基場を築き八月十四日ゟ両方へ
出張人数も段々相増し終に戦争有之新発
田ゟ死傷数人程と有之其他長岡の義
云有之又戦争ハ有之而已打取候津川とりつめ
有之今ゟ砲声不絶と云此処ゟ津川とりつめ
有之小村と云

一早谷より計季田侯ゟ砲兵
八月二十七日ゟ津川宿陣
朝五ゟ遠山内を立て中山村へ行着をて
故へ終ゟ七ツ半頃ゟ芦谷迄ゟ赤谷へ引取
戦争有之地形険阻ゟ行地ゟ昼夜
津川望ゟ佳景ゟ津川ゟ七ツ頃着諸家ゟ澤山
一赤谷迄ゟ長州ゟ夫卒ゟ差出て津川へ移ゟ向ふ
近隣之下故川を隔ゟ峯砲手故ゟ賊未速ゟ賊兵此津川ゟ當地故盛砲を発ゟ
幕府ゟ澤山打ゟ川ゟ向ゟ基場ゟ有ゟ賊敗走ゟ節蔵ゟ地雷火を仕掛ゟ長州報
国隊ゟ三人怪我をゟて右を送ゟ砲ゟ美事ゟ哉ゟ

一津川ゟ考ゟ迄ゟて家ゟ者不残逃ゟ不
恐ゟ逢ゟ此度会津の方ゟ焼ゟ火ゟ
八月二十七日ゟ日隆雨

一十ツ時八木山ゟ進軍ゟ聞ゟ又八田ゟ迫ゟ
ゟて〻ゟ拵ゟ宝川ゟ渡ゟ狩田ゟ一ノ迫ゟ故田屋

進発せらるゝ筈なりしが、其の夜の四つ頃より降雨烈敷ふりしかば、
一、其儘其の夕飯も不喫、賊那須野を指て進発せらるゝ先鋒一大隊にて本道より二大隊にて
　間の長野抜武陽と蛭川沿ひ十五番戦士両道より進発す。今夕より夜九つ過迄を限りて
一、昨日白坂へ向進発せらるゝ処、戦闘なくして賊ホ直ちに引取
一、長人より吐合津より白川口へ放入二字号口より浪人共裏切を三ヶ処より附火
　致候由

八月十八日　青坂村泊

一、晩九つ時頃白坂を立て黒村を通り千村を過ぎ、通実より両道を以て那須野へ繰込
　させ、夫より進発の時に那須野を立あの村棟木村を通り野沢より著賊ホ敗走仕候に付、昨日昼頃より逐次両口共に引取、夕飯を吃て那須野
　とあの村より通最峻にて実に一筋道にかゝる処、朝飯にてあの村より抜武隊にて
　中食を一同食す

一、賊本道の両脇戸村と云処より両道に分れ一大隊宛本道二大隊脇道
　より進撃、柳津に集有之処、柳津と黒川とて八十里敵辺を流れ川にて
　薄長く兵川を隔て発砲す。長岡隊三人負傷す。ホと石坂へ向近進て
　夫より石坂に休息の後引揚休息す。故引揚休息す。那須野へ進軍す。今晩
　長窪にて夕飯を喫し昼頃より行軍にて夕方に着、一泊す

一、本通より左へ四つ半過ぎに黒川を渡て戦争ありて大砲の音頻りに
　聞ゆ

閏八月九日　晴天

朝六つ半時過ぎ発して村を通て杉宮注村泥布山村長板村を通り小杉山にて昼飯を吃す
　夫より那須野を越し、黒田原へ組、着四人にて作候出、賊ホを離屋村旧之宿村柳津

村ホ、ヒ集結只見川ニ向フ石澤ヲ地形ヲ不宜ヲ以相談ノ上先少松山引上利セ宜ヲ
下達ス。

一夜ニ入今津ヨリ西ノ方ニ當リ火ヲ發スル

八月晦日 晴雨 小杉山在陣

一見出ル人ナク交易ニ出ル

一タ七ツ過ニ至西ノ方ニ百姓二人ヨリ云賊ホ只今宇川向ヒニ有テ船ヲ引上ケ
渡ル當村ヘ多人ヲ越ケ乱妨ヲセントス依テ兵隊同勤ニ四人右迎ヲ引ニ先遣ス云
ケ故先ヲ候ヘトモ云ニ依リ組ニ半隊ヲ以テ

六ツ過ニ至リ石澤ヨリ第迄ニ案ニ家又ヒ人多ク賊ホ既ニ西方ヘ多ク乱妨シテ居リ
ノ様迄ニ利セノ為ニ候ヲ有テ居ルモ皆又ハ少ノ方ニ引揚ケ
此家ニ一泊ノ由ヲモ本ヨリ實ヲ定ル

一少杉山近辺ニ諸道行ノ一小隊ヲ中ニ守護ヲ以田代ト原ニ石坂ニ合後行ノ

九月朔日晴 在小杉山見張所中

一多須ニ至ノ田代場田原ニホ皆ヲ云賊ヲ得ル山越ヲ石澤ヲ地形視ニ我兵隊探ル
トヒモ云ニ依ニ極楽寺ト宣シク他ヲ早速ニホ探ニ隊探ル山通ヲ西方ヘ參ノ故昨夜探ル有テ
ノ報ヲ有ノ故速ニ皆ヲ云者ヲ以早長州ニ二小隊探込ノ通ヲ西方ヘ參ノ故昨夜探ル有テ
我兵隊ヲ西方迄行程トテ案ノ方向ヒヲ石ヲ詰シニ原ニ行リ 暫クシテ西方ニ當リ砲
声聞ユ予ホヲ又所澤ニ立ニ山ヲ臺場築ニ行テ夜六ツ過ニ皆ヲ見ヲ西方迄行ニシ
中村濱山ヲ文三村ホ皆ヲ有ノ故極楽寺ト宣シク他ヲ早速ニホ探ニ隊探ル山通ヲ西方ヘ參ノ故昨夜探ル有テ
ノ報ヲ有ノ故速ニ皆ヲ云者ヲ以早長州ニ二小隊探込ノ通ヲ西方ヘ參ノ故昨夜探ル有テ
我兵隊ヲ西方迄行程トテ案ノ方向ヒヲ石ヲ詰シニ原ニ行リ 暫クシテ西方ニ當リ砲
声聞ユ予ホヲ又所澤ニ立ニ山ヲ臺場築ニ行テ夜六ツ過ニ皆ヲ見ヲ西方迄行ニシ
中村濱山ヲ文三村ホ皆ヲ有ノ故極楽寺ト宣シク他ヲ早速ニホ探ニ隊探ル山通ヲ西方ヘ參ノ故昨夜野沢ヘ出ル道有ノ故西方ヘ賊ヲ參
ノ由ニ依テ進有ノ故此ホヲ三小隊ヲ以探ル參ノ故昨夜野沢ヘ出ル道有ノ故西方ヘ賊ヲ參
築ヲ在賊ル有ニ依テ先行候ヲ出シ一隊ヲ以テ賊ホヲ基場
山ヲ半腹ヲ横ヲ突故ニ掲銃ヲ以テ賊ヲ伐ル十人ヲ有ノ由ニ小松山ヲ山ヲ半腹ヲ行兵ヲ以テ麻生ヲ止
ヲ釣山ヲ止ノ村ヲ故賊ホ逐ニ敗ヲ引ヲ田ヲ原ニ落ル迄ヲ云

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一夕方小谷城ニ而當ル又火ヲ見ル

一夜ニ入先供竹ヲ三ツ程ニ追立ル家數ヲ十ヲ余リ引揚ヲ南部ヘ兵ト入ラセテ遂城ト攻ラレシヲ見ル先遣軍利奈岡氏陣有官軍ノ小謝翠ヨリ云先遣ヲ以小谷ヲ降伏屢ク兵災拔ノ君侯ヲ城ヲ出ル有ヲ由城下迎和之官軍ヲ米沢口ヘ攻込ムヲ云

一今夜四人ノ見張所ヘ出ヲヲ當ヲ也ル

九月二日　小松山在陣

一交代ヲ下陣ル　後遠雷ヲ野ヲ方ヲ多少ノ砲聲ヲ聞ヲ

一拙ヲ今朝ヲ雨ヲ

二日　晴夕方雨　小松山在陣

一朝ヲ張家事ヲ多ヲ出ヲ麻生ヲ止宿現堂近ク候ヲ砲聲ヲ

數千發ヲ多ヲ下陣ヲ引揚

一既ニ引拙ヲ者　兵ヲ野沢近在ヲ出ヲ米ヲ昨日ヲ松阿多川ヲ渡ヲ西ヘ退有之　御家ヲ牧野組組出ヲ手合ヲ追敗ルヲ云

一少松山所澤ヘ行道ヲ九ヲ山ヲ絶頂ヲ今城ヲ見ヲ事ヲ

ヲ伝ヲ事ヲ多ヲ移ヲ先達ヲ放火ヲ何レヲ迄有ヲ来ヲ

一城下陣ヲ高ヲ五十七ヲ今城ヲ降移ヲ多ヲ同ヲ

重城ヲ城ヲ二ヲ今城下大ヲ八兵災ヲ罹ヲ

根ハ焼ヲリヲ云　城下ヘ幾所ヲ火ヲ昨ヲ故老人ハ

婦人ヲ長刀ヲ持官軍ヲ出ヲ入ヲ多ヲ婦死ヲ有ヲ

同四日　朝雨四ツ頃ヲ晴　小松山在陣

一 無別条 夜ニ入会城之方ニ当リ火気見ゆる

九月五日 快晴 朝霜 小松山在陣

一 会城之見ゆる所ニ登リ観れハ会城火気盛ニして砲声聞ゆ 越後口之方も進発

之者有之哉砲声頻ニ聞ク又火気も見ゆる

一 朝迄ハ[illegible] 相扱ヒ候得共

同六日 朝雨 快晴 少松山在陣

小椎山戦

一 昨日松楢組 牧野組 其他長州藩口木ニ而進撃いたし候節 御家ニ而も負

手人程有之 長ニ而死傷合二十人も有之と云 余程難戦ニ而

一 今日も会城下火気見ゆる 天主も焼失と見ゆる

一 白川口ニ而官軍斥門之向天屋迄近大野ヘ奪取候故 永戸(斥門)迄之賊ホ柳津

之方々会津之方ヘ引取候故 越後ニ而官軍も昨日七ツ時ニ只見川を渡り而

柳津の賊も賊も引取候故是も今日七ツ時ニ川を渡り而日之原之賊ホタ七ツ頃日之

原之民家ヘ火を放ち引取候 柳子二軒程焼失致而

一 引続而御前様より越後口当口之賊兵も今日退散定而何れ歟

も因之者ニ而夫より川を渡り夫々当口日之原ヘと

御進之歟 左候而は節篤と相待居候 同日暁同所より何れも節

之事も知レ不申

九ツ六日五時半頃発足

西方村 会議所

両代 小松山出張 長官会申付

同七日 曇 滝谷(谷)在陣

一 朝六ツ半時過小松山下陣を立 麻生之渡を渡り日之原迄進軍致し 本営早滝谷迄

進ミ申而 滝谷ヘ進ミ先暫休息との事故昼飯抔喰ひ夕七ツ頃ニ至り

此可容陣いくも朝廷軍との事ここに
一今城下より砲子を向くる官軍白川口二本松の兵千弐百許り会津
方を固めるを見官軍少しく故長兵二小隊ここに回を砲す天室通近
辺北陸官兵通の進状との事ろ聞き賊兵小荷駄引揚流谷口より
道ろ城下ろ方い参り也柳津を落ち官軍形勢因ろ兵追撃ろ妥ろ不会
遂ろ兵を浴て今朝柳津ろ陣ろやろ云
一今城、寄手不意ろ夜間必死ろ奮戦ろ守ろ由婦人等も負傷を運漕ろ国と共ろ亡
ろう心事ろ由
一城兵八帆掲ろ船ろ乗ろ耳し有ろ云
一子ろ数ろ官軍も昨夜川口ろ渉て今夜妖激谷ろ向ろ敗走ろ
ろう乱暴を以ろ各ろ近ろ四ろ村ろ移ろ

一夜ろ至ろ巡邏ろ厳重ろ
六ろ時ろ五ろ過 振武隊 五ろ時ろ四ろ時過 報国隊 四ろ九ろ時過 奇兵隊
九ろ時ろ八ろ時過 鯨隊 八ろ時ろ七ろ時過 遊撃七番隊 七ろ六ろ時過 松代
右ろ通ろ一時ろ交ろ砲声ろ絶ろ事
下等ろ上 ろ

一夜五ろ半頃ろ又ろ砲声ろ
明六ろ半ろ出張ろ事

一大峯勢多隊ろ守備ろ大砲数門ろ進撃ろ事 其ろ日軍艦作回航ろ事 其ろ日
一大山彦津川筋通四小隊ろ一橋ろ会ろ事
一村松明朝ろ引揚ろ二ろ会ろ
一明朝ろ手前ろ大峯ろ近ろ報国隊ろ

今後有

一 午下刻探迫ると雖ども早速交代之事

九月八日 雨 大峯村宿陣

一 昨夜通り朝八ツ頃瀧谷を立大峯村に六頃着長州之報國隊之交番して持口三ヶ所守衛并
報國隊も昨日此所へ着迄之処を通り之方へ至り漸と持口を定る守ると雖ども小屋も無之
墓場も無之降雨中を張り甚だ苦労せり七ツ半頃至り吉野川之半隊を村去二分隊半ヶ
俵ヲ一ヶ所村松に引渡守衛せり

一 大峯より三里向之南へ賊千人程集ると雖今朝本郷之方より引揚之由村役人より届出せり

一 仙堂米澤之戦隊加り有之

一 八十里越之諸家之人数其他諸家之人数探に押込之由雖ども

同九日 晴 修験宿陣

一 朝六ツ半頃大峯を立交代之為瀧谷へ着

一 小倉之兵一小隊仙台之戦隊瀧谷へ着

一 吉野を元吉野川之ほとりに集ると雖ども八十里越之諸家之為其他諸家之人数探に押込
置之事ゆえ大峯小隊修験宿陣を御警衛之為残し又大峯へ参り吉野川を越し二日
修験宿陣

同十日 快晴 中ノ山宿陣

一 昨夕早駕を以て先鋒金児小宮山氏瀧谷へ着今朝四ツ頃修験宿陣へ来る夫より相談して先あ
る迄大作候とて御家之三隊吉野戦士之あると迄案内として東賊ホラ迄千人と
氏住宅有之候あるゆえ向へあり吉野川と云小川あり此辺より進て東賊ホラ川を向に堤有之此堤を
土手と墓場を築きて有之故先引揚之村へ入口に番兵を残し賊ホラ砲を発せ候まで互
軍を一発も不発中へ山迫引揚之村へ入口に番兵を残し賊ホラ砲を発せ候まで互
一 吉野を仕舞て父子共瀧谷へ宿陣

一 今ノ銭本道ニ官軍ヨリ明ノ十日村ニ至ルベシ

九月十一日 快晴 中山上見張所ヨリ中村ニ在

一 昨夜中山ヨリ谷ノ如キ坂ヲ云フ所ニ篝火ヲ焚夜警ヲ厳ニシ敵ヲ待ツニ敵ヲ見ズ故ニ筆ヲ二人ニ変ジ

一 本朝文書ヲ出スヲ以テ諸隊ノ陣ヲ繰ル如シ各隊ニ令シテ曰ク

一 当須ラク明日進軍ニ及ブヲ以テ佐田氏ヨリ砲ヲ出スベシ

一 夕方ヨリ大砲ヲ発シ小千城ニ当ラシム砲声頻リニ聞ユ又火ヲ見ル 之ヲ賊

遁レ去ルヲ以テ兵ヲ進メ

同十二日 曇後雨

一 昨夜ヨリ大雨ニシテ今日ニ至ル 仍テ人馬ノ為ニ

一 当時賊ハ津川口ヨリ引揚テ米澤街道木曽村小村井村ニ屯ス人数凡ソ千人余ト云

一 至後ヨリ雨止ム 是ニ於テ軍議ヲ開キ又兵ヲ出ス 之ヲ賊

退キ去ルヲ以テ兵ヲ進メ

同十三日 陰雨風

一 日光ヨリ官軍不利ヲ報ジ引揚ノ由ニ付 仍テ

一 昨夜ヨリ大雨ニシテ小川ヲ渡リ進ミ難シ 仍テ

一 本曽村ニ一昨日ノ戦争ニテ分捕ノ品々ヲ出ス

一 今朝ヨリ賊又逆川ヨリ援兵ヲ加ヘ千余ヲ以テ

一 昨夜ヨリ大雨ニシテ小川ヲ渡リ進ミ難シ 仍テ

一 当時賊ハ津川口ヨリ引揚テ米澤街道木曽村小村井村ニ屯ス人数凡ソ千人余ト云

一 至後ヨリ雨止ム 是ニ於テ軍議ヲ開キ又兵ヲ出ス 之ヲ賊

退キ去ルヲ以テ兵ヲ進メ

同十三日 陰雨風

一 日光ヨリ官軍不利ヲ報ジ引揚ノ由ニ付 仍テ

一 昨夜ヨリ大雨ニシテ小川ヲ渡リ進ミ難シ 仍テ

一 本曽村ニ一昨日ノ戦争ニテ分捕ノ品々ヲ出ス

一 今朝ヨリ賊又逆川ヨリ援兵ヲ加ヘ千余ヲ以テ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3　ガラス使用

一 台場守人死出ス

白川口合図旗
赤
白
赤

夜中ハ合図　松明 挑灯　向　◯　十

合言　山　谷

日光口合図旗
白
赤

北征日誌第三號

九月十四日　朝雨晴　中ノ山屯陣

一 朝五ツ頃交番ニ守人ヲ台場ニ出ス城下東南ニテ山上ニ頻リニ大砲ヲ発ス昼九ツ前ニ至ル
城ノ東南ノ隅ニ当リ烟リ有リ多分城内ニ物干見ユ前ニ至リ城ノ北ニ当リ火気登ル
大手先モ又火見ユ城下近辺ニモ火見ユ大手先ノ前ニ至リ如斯ニ而不日落城ト存候

一 前ニ至リ下陣ニ帰リ今宵大切ニ付而組ヲ半隊台場ニ戦争ニ出人出ス

一 十日頃木ノ村辺ニ戦争ニ官軍共ニ不利ニ而四家ニ而打死藤井芳之助(?)野路某之入負
ハ中村順三輔ニ柳沢(?)其外組ニ而ハ不見者壱人手負八人有之田辺孫支(?)森勝之助ニ而手負
方村組ニ死傷之人数ニ而此手負ニ四家兵ニ合図ニ四家ニ而戦争ニ而不利ニ而引揚ケ
ノ辺ニ而辺ニ而之ニ而近辺ニ而アリトモ得共手負之者壱人ハ負 勝手ニ御座候由ニ云

同十五日雨　中ノ山屯陣

一 今日モ昼下砲声打聞　口前今倉ノ野辺ニ賊徒三人モ集リ申

同十六日朝雨晴　中ノ山屯陣

一 交番ニ而台場ヘ出ス若ニ而下陣ヘ帰ル夜四ツ過ニ至リ明七ツ半迄軍ニ入合ニテ

松代一小隊
同大砲二門
先鋒
微兵一小隊

逆瀬川口
小倉一小隊
先鋒
沼田一小隊
村松一小隊

上二半日ヨリ杉澤口ヘ
杉本一隊
進撃
新発田一隊
中山守衛
少々ノ一隊

右中ノ山口
右ニテ進ム右ニ敵ハ其用意モ調ヒシ暇ナキ事ナレバ
僅ノ人数ニテ
一高田兵ハ八十里越ヲ通リ会津侯ノ兵ト差出ノ来長井野辺ニ於テ始メテ砲声ヲ
九月十七日
一今後下ノ領ヨリ砲声ヲ聞ク会津侯南東山ヨリ一里半程ヲ一面ニ大営

井杉一隊
杉代一隊
口大砲二門

杉本一隊

同十八日 高田村ヲ陣
一暁七ツ前頃明六ツ時迄ニ軍ヲ合ヒテ攻ル
中ノ山口
先鋒
杉代二小隊 金谷川ヲ
後兵一小隊

長
右後詰
寺兵一隊
杉代遊軍
杉代砲二門
杉代一隊 牧野

小倉一隊
杉本一隊
杉代一隊 土佐山
右後詰
口大砲二門
山ノ手先鋒
治右一隊
村杉一隊

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

高田戦

長 薩兵隊 斎藤
　 松本二隊 通訳川上衛
　 新発田二隊

午後六時ヨリ敵陣ヲ望ミ根據ヲ目的ニ進軍ス
一 朝六時半過ヨリ進ミ下陣ヲ立山上墓場ヨリ望ミ八徴兵ヲ既ニ墓場迄ヒモー町余ノ故合一
ヒナシテ新道ヲ進ミ金鬼蛭川長ヒ高兵隊我大砲方ヲ本道ヲ進ム先我進ミニ新道
ヲ徴兵先鋒我ヲ立番組ヒ警護ヒナシヒヲ手ニテ赤岡村迄進ミ夫ヨリ逆瀬川迄ニ書リ
砲声盛ニ聞ユ故ニ我ヲ打揃ヒ伝歩ヒ進ミ暫ク打合中ニ後ヒヨリ五六発ノ故ニ
能ク顧ミレハ蛭川氏ヒナリヒヲ手進ミ故合旗ヲ振ヒヲ更ニ止ム依テ故ニ
中ヲ行テ振リヲ誘引ヒヨリ又敵ニ打合ヒヨリ蛭川組ヲ右ニ折ヒヨリ
ヒシテ右ヒヨリ追ミ立番左翼ヒナルマテ進ミヒヨリ金鬼組本道山ヒ中ヲ八木澤ニ進ミ

長 高兵隊 高橋
　 村松二小隊

畑ニ中進ミ故共ニ助ケアカサント云ヒ迫ニ進ミヨリ通ニ徴兵今ヲ不進故ニ暫ク待合セテ
ヲレハ長ヒヨリ兵隊進ミ故ニ同ニヲヒヲ見備ヲ立テ右ニ折テ進ミテ迫ヒ右ニ折ヒヨリ新
道ヲ敵正八幡ト白地ニ黒ヒヨリ旗ヲ立テ其後ニ立迫ヒヨリ北刈ヒ敵ヲ人打ヒル
夫ヨリ高田村ニ進ミ町ニ一番ニ湯本金井ヲヒ三右門等ヒヨリ追ヒヨリ北ヒヨリ敵ヲ不残陣ヲ徴義隊
裸ヒ捨ヲヒ迫ヒ後ニ於テ裕ヒヨリ着ヲ敵ヲ数ヲ知レヒ退ヒヨリ跡ヲ見合又追ヒ
ヲ易ク敵ヒ迫ヒ後ニ続ヒヨリ進ミテ宮別ニ宮伊佐須美大神宮ヒ社ニ行ヒヨリ
鏡ニ弐枚程大砲弾薬一箱小銃弾薬二箱餅ヒ四ツ刀二本其他雑物品ヲ分捕テ
夫ヨリ請家ノ人数ヒ一同ヒヨリ南東ヲ流ヒ下川ヲ渡ヒ行ヒヲ村家有ヒヨリ故ニヒヒヲ手
ニテ敵不残ヒ入口ヒ土蔵或ハ真木ヒ蔭ヒ連発ニ打合故ニヒヒヲ手故ニ敵不直ニ逃去ヒ故右村
ヲヒヒヲ近付候ヒヨリ引揚ヒヨリ処ヲ鉄砲ヲ以テ撃ヒ休ヒヲ中ニ日光街道ヒヨリ矢作候ヒ長ヒ
高兵隊ヒ我ヒ金鬼組蛭川組村松ヒ小隊当ヒヨリ故ニ金鬼組ヒ後引ヒヨリ

梁五番組右下陣一条ヶ坂東之方杉本氏屋敷之事あり多勢
（時々繰り組来る）
候ゆえ一里程東西之方村屋迄行候ハヽて之而引揚宮ノ陣ヶ
一小宮山組十騎斗進馬二疋分捕御家之先傷重く候得共
手捕ニ三四人有之ゆえ多勢之賊を田島之方ニ而打留
云々死骸ニ而候ニ賊水戸長岡二本松等之仕子ニ而賊ニ
九月十九日曇　　坂下宇枝寺宿陣
一朝五過坂下之方へ参り候ニ本中軍之通り直松嶺川縁と田之村を之境井野村
村を経て坂下ニ九時頃ニ着ニ而村家ニ七番組ニ而
一隊長今朝来刻若松城下を巡見ニ行ニ
一高田領小井ヶ追撃ニ可被参ニ付夜長州ニ大行候ニ而処々ニ賊不残打ニ
逃去候ニ付不参ニ而御深手ニ付御隊先鋒　村迄五人ニ而引取
此大行候不出ニ而追撃味方打ニ而一和成ニ
一十番戦士杉植組男代ニ而家ニ入ニ而
同二十日晴　坂下ニ而営中昨日之事
同二十一日晴　同上　今日之事
一街説ニハ会津ニ而昨日頃ニ砲声ニ止多ニ而行ニ而橋ニ移子降参ニ一和成ニ而有
同二十二日晴　若松城下宿陣
一朝五半過坂下を立て会城下ニ行候ニ出　西ノ九月ニ而ハ
同二十三日　坂下ニ陣
一朝五時ニ参会児代下陣をニ而中を御細ニ城下ニ而ハ
多ニ而ニ城を囲又今日ニ至り城つゝ不残開多
程ニ而城ニ而ニ方ニ而ハ通ニ而持とのゝ而ニ而
大川ニ而ニ而通ニ而程ニ而ニ而ニ義

は故引返すべきと云つゝ夫より下田へ引取る

一今日九ツ頃会津藩士退散として三千余又は五千共四千人程婦女子迄皆湖水を渡り行くと云城より大砲二挺余有る様子なり

一今日の喪と奇兵隊殿後五百余迄引揚と申す依て坂下を撰ぶ

九月廿四日晴　坂下化宮

一御家老稲葉城川隊を昼過田嶋へ移すと云今夕米澤と兵二大隊も田島へ方に撰出すべしと云今夕人数田島へ降参せんと侍多く行くと云

一西国寺公今の若松城下は安心と見て坂下村を御馬を以御覧ありたしとの事なり

同廿五日　坂下化宮

一今津君臣数名の人数軍機等を載て送り来る

一若松城寄衛を越米七分清ハ三分也

一御家老若松へ有てライフル砲を引揚る其分諸家の人数を以引揚る

同廿六日曇　坂下化宮

一當廿五日八十里越にて飯山と兵不利の風説有る

一當廿八日越後田島へ発て加州へ通飯山と兵不利にて川口迄撰出るとの事分家飯有る圓蔵寺と云

同廿七日晴　柳津宿陣

一四ツ半過る着て云八十里越にて官軍不利分川口迄撰出るとの事分家飯を吃撰出し坂寺柳宮を通て柳津へ着る昼食

一途中より新発田人一人連の物を聞くに昨廿六日頃大会津降参の由と云

知て唯四ツ手人家を止めて有ると云　右人長人の由と云

九月二十八日曇　沼澤在陣

一 朝五ツ前柳津ヨリ二里ニシテ滝谷ヨリ来リ見廻テ小倉ヨリ一小隊在陣ク休息シテ九ツ前宮下ヘ着此処ニテ昼飯ヲ喰ヒ夫ヨリ道程五里斗ヲ行キ賊情ヲ聞ハ更ニ不分ヘ其賊ヲ本名ヲ追去官軍ハ本名ニ至ル之ヲ相議ニ而来ル二里ニシテ沼澤村夕七ツ過ニ着村民殺ニ家ヲ下陣トス此村ハ全ク児玉ハ一晩ヲ荻窪ニ探索ニ而之ニ出ル一童子モ残シ在陣ス

一 此頃我下陣ニ来ル賊情更ニ不分旨去ル今日柳津川氏ヨリ北虜ニ来テ右兄弟其後ハ賊ハ本名ニ屯集有ル故八小隊ハ西谷近探索ノ上賊未近去大塩村ト云所ヘ集リ申故本名ヘ探索ノ大塩村ヲ目的トシテ一ノ進撃トノ事ニ川口ニ六小隊在陣ニ而

同廿九日　沼澤宿陣

一 沼澤村ヨリ西北ニ当ル沼アリ此沼一里程ニシテ水深シ山中ニハ珍敷沼ナリト云

一 此口ニ賊ハ野尾ヘ降参ニ出ル由

○八月中会津依竹ヘ御達書 仙台米沢討伐ノ事 及詔書写シ載ス 太政官日誌四十九所出故略

十月朔日雨夜ニ至リ雪降　沼澤在陣

一 改元明治ト年号御一代一号トニ仰出サル

一 降参ノ者野尾ニ賊三人降参ヘ来リ謝罪之事ト云参謀ハ参謀局ニ謹蔵セヨ此方ハ一乃至西田島ニ謹慎可有之トノ事ナリ

一 斯迄ニ探索ス者賊兵ノ数追ヘ引揚ル

同二日終日晴雨　沼澤在陣　無事

同三日晴　滝谷宿陣

一 今般須達有ニ付宮下ヘ引揚其上本営諸所ヘ出会上引揚ト申故飯食後沼澤ヲ出宮下ヨリ以テ滝谷近トノ事ナリ七ツ半過滝谷ヘ着 村長谷森孝太郎ノ家ヲ下陣トス

同四日快晴　天屋宿陣

一朝六ツ前漸谷と参称津ヶ寿又虚空蔵ヶ条右ニ而
陣下ヶ寿ヶ云先野屋迄引揚ヶ云国と一ツ待ヶ小事之候て船ニ而
野氏屋一同ヶ乗我後　武兵衛ヶ家ニ
野氏ヶ徳用ヶ云ヶ陣とス

十月五日晴　野尾宿陣

一朝六ツ過野尾下陣ニ而八木山ヶ云ニ而飯支ヶ津川迄ヶ諸家人数多ニ而陣
ヶ野村百姓ヶ家ニ右ニ而一陣ヶ事
一田島ノ越野尾陣参故番械調ヶ水戸杉季ヶ法家ヶ外ニ引寄ヶ
一若松領下ヶ云ヶ御初ヶ加州ヶ五人ヶ云ニ而二人ヶ家ニ人北陸道ヶ二ノ宮迄ヶ

一城下南十五丁加州ヶ警ヶ為待北ヶ方右ニ而
同七日晴　津川陣
一ニ而ヶ野村ヶ云ニ而津川ヶ九ヶ過右番宿ニ而
一陽長ノ地下ヶ参故野尾ヶ一泊今七ツ時津川ヶ
同八日曇夜雨雪　津川陣
一ノ内秋筝田ヶ筝ヶ云ヶ布ヶ一番大数ヶ云ヶ詰ヶ
越前六小隊
右敦賀下為戍兵ノ残半
加州八小隊
富山四小隊
右敦賀日新
大聖寺四隊

右金津ヶ下為戍兵ノ残半
加州八小隊
富山四小隊
右敦賀日新
大聖寺四隊

同日晴　津川陣
一ニ而ヶ野村ヶ云ニ而津川ヶ九ヶ過右番宿ニ而
一陽長ノ地下ヶ参故野尾ヶ一泊今七ツ時津川ヶ
同八日曇夜雨雪　津川陣
一ノ内秋筝田ヶ筝ヶ云ヶ布ヶ一番大数ヶ云ヶ詰ヶ
越前六小隊
右敦賀日新
長州八小隊
新発田四隊

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

右越後口新
発途の事
右津川の新
右越後口新
日九日晴　米倉村宿陣
一今暁通知ありまず陣ぐ法吏ら一番金児次牧弥三五番四六番六五番七
大隊猟八隊長九小隈十小宮山ら次々次第を以網木村ら
至飯山の河下陣ら都合不宮の数ら隊長牧弥隊を亀山の宿陣して五番其他ら
米倉村ら越村ら氏下妻ら宇次ら下陣トス。昨夜ら雨ら如ら此其他道悪く諸事もり
日十日晩ヨリ大雪夜ら昼ら不止　新発田宿陣
一朝ら未ら時ら米倉村ら発ら越て新発田入口ら
先鋒其他津川発ら如し城下ら西ら御本陣米倉村ら行ら
屋ら宿ら陣ら下陣ら手次ら四ら半次ら
一新発田在陣ら人数先鋒別隊鍋島加州越前富山大砲手ら田福智山
ら鍋ら鳴ら遠明名徴兵御親兵御家黒川
十月十一日快晴　新発田滞陣
一元十八日ら十九日ら三日ら迄ら
日十二日快晴　同止
一今後市中御仰ら序ら家中ら手丸宮様ら宿陣ら向ら行ら
ら美麗ら
一別紙ら通　御本営ら　御家ら同
ら御移ら
来ん十ら招魂祭ら

於高徒療治所々負人手負人共
致おくれ候計之分加馬義一疋宛出ス可之
右之割合ニ而本営ゟ 仰渡候間可被心得候

十月十三日 降雪 新参同宿陣

一 病気ニ付御暇願之上下二十人程引払当地ゟ著、我下陣之通行

同十四日 降雪 新参同断

一 昼八ツ頃ゟ當地警固之人々有之候間勤合宿議有之候事好行ゟ

○東京御親臨 改元 官軍従東北者不野荒相當ニ付略ス

一 督興侍従 御誕生 御親母有大宮ニ而 御四方ニ而 御祝儀
御名を以従三位 宣下ニ付而ハ御序順ニ而ハ興侍上台ゟ 仰渡
右之通ニ候 勤迄ニ仰出候事

一 諸街道往来人馬継立宿々駄賃増方ニ付御触書出ル
右之通ニ候

一 御書出
別紙之通ニ而十月廿三日ゟ十二月三十日迄
限り通ニ十分ニ上
右ニ付而ハ御手之通ニ心得ル事
別紙
加州五ヶ已ニ刻 宮御方當表 御出駕
相和明後十二日出立之旨ニ付
但従高岡手紙ニ而ハ一日ニ完見合出立之旨ニ候ハヽ
右之通加州を初従高岡向ニ不限ニ而ハ
ゟ 仰渡候事
御本営

月々御手当金
一 拾両　隊長
一 六両　副長
一 四両二分　番頭 役人
半隊目合之同
一 三両　給士
一 　　御徒士
　　　以下

十月十五日快晴　新発田滞陣

一 宮様信州御通行ニ而東京へ御発駕之趣ニ而御進発
一 奥羽鎮撫大総督十一月中ニ東京ニ御着之様御達有之由御触流
一 御番士以下之者共[illegible]奉公之者共夜ニ至り四組共不残隊長之陣屋ニ集り夜ハ[illegible]頭之家ニ而[illegible]
　給[illegible]之者共[illegible]合ニ而[illegible]見合ニ[illegible]之是ハ遂ニ[illegible]陣ニ於而[illegible]
　之又何連も[illegible]合之[illegible]有之甲斐之[illegible]合を以[illegible]宛相渡[illegible]へ[illegible]
一 [illegible]士甲斐出張之[illegible]合を以金[illegible]両相渡[illegible]弥[illegible]
　[illegible]二[illegible]候　十月十五日夜
一 [illegible]合ニ而[illegible]信州[illegible]先ニ而[illegible]金[illegible]
　上ニ[illegible]四組[illegible]　[illegible]
　[illegible]
　[illegible]金[illegible]四両[illegible]
　[illegible]一統

十月十六日快晴　新潟滞陣

一 御達之通朝六ツ時出陣之長岡陣之寺行[illegible]今[illegible]出[illegible]依て
　直様[illegible]出セハ総三丁許ニ而行[illegible]田[illegible]中を[illegible]先行[illegible]程[illegible]休息ノ
　[illegible]五六丁[illegible]阿賀川を渡り二里程ニして沼垂村[illegible]村を新発田領[illegible]村中ニ陣
　屋あり此村ニ[illegible]新潟ハ[illegible]と云[illegible]道[illegible]と云新潟[illegible]見[illegible]ハ宮様[illegible]夜四ツ
　過[illegible]招魂[illegible]と云[illegible]小山[illegible]兵衛[illegible]陣[illegible]九ツ
　[illegible]夫[illegible]市中徘徊して白山社[illegible]招魂[illegible]廻り[illegible]人[illegible]
　[illegible]会[illegible]行[illegible]南北五拾間四面[illegible]三面[illegible]鳥居[illegible]建土堤
　を築き[illegible]束を結廻し四寸角[illegible]尺[illegible]表ニ何ノ誰霊神又ハ何[illegible]之墓ト誌し[illegible]
　り其廻りハ幟を立香華を供へ[illegible]死[illegible]業を残し　宮様[illegible]を遊して霊を慰
　[illegible]宮様[illegible]本営正福寺[illegible]陣[illegible]

一夜之事仍官軍襲寇相戒ニ得テ遁去
之事ニ
十月十七日 新宮陣
一官軍當花峯寇ヲ攻ル什分ノ内其
日十分ノ時
一別紙京師ヨリ 仰出ノ旨有之候
ニ付 御觸流之ニ付乍都表ニ
休ム 十月
松代藩

一東北征討ニ諸軍勇進長驅已ニ賊巢ニ逼リ捷報日ニ至
嶮隘ニ地追ニ寒天ニ臨テ風雪ニ惨苦ニ可至ニ深ク
ニ 思召ヲ以御羊毛布一着ヲ賜フ
九月

◎天長節 東京行幸御即位式 先帝御名日ニ布告四通ニ付略

一今般勇将戒諸戦降服略及鎮定ニ条全以各藩ニ力諸兵隊苦戦ニ義ヲ深ク
感ニ 仰出ノ旨ニ一先ニ 御休ニ 御沙汰ニ事

十月

一戎装ニ寒事ニ至ル迄ニ敏ニ便利ニ有之ニ付暫ク西洋製ニ被
下度ノ旨

別紙ニ新条ニ 御示ニ 仰出

一明治六年ニ今ニ

十九日 秋晴 稲島戒 家陣

朝六半ニ過ニ 高松行ニ 楫出ニ 之ニ 内務ニ 参着ニ 御沙汰ニ 之

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

一 近日海上穏ニして椎谷と富川と合之船数拾艘ニ而往来
同二十三日 大風高雨 柏崎宿陣
今ニ而ハ半過柏崎を云難波夫ゟ矢慶茶屋ニ而昼
食ス時ニ風烈ク雨も甚ク人を吹倒ス程ニ鉄崎ニ宿
取ル筈ニ而ハ有之ニ付柏崎ニ泊ル若子ニやや新手ニて候
同二十四日 朝雨昼頃晴 宮地宅兵衛宿泊
ゟ通ゟ相ゟ半過柏崎ニ着ス渋町黒井ニ而昼飯を喫ス夫ゟ新田ゟ七ツ頃ニ
同廿五日 終日細雨 関山富山屋彦兵衛宿
ゟ通ゟ朝ゟ半時ゟ四拾丁計ニ而昼飯小出雲ニ而休足夫ゟ二本木関山ゟ七ツ頃ニ着
同廿六日 快晴 柏原宿陣

一 宿ニ而稼ニ而ハ有之ニ付宿ニ而ハ
同廿七日 雨 弥彦宿陣
ゟ通ゟ朝ゟ晴ニ而ハ有之ニ付宿ニ而ハ
宿ゟ過半類焼ニ而ハ有之ニ付宿ニ而ハ
ニ而ハ有之ニ付宿ニ而ハ
同廿八日 快晴 弥彦宿陣
今ゟ通ゟ朝ゟ時弥彦ニ而ハ有之ニ付宿ニ而ハ
宿ゟ過半類焼ニ而ハ有之ニ付宿ニ而ハ
ニ而ハ有之ニ付宿ニ而ハ
同廿九日 雨 弥彦宿陣
ゟ通ゟ朝ゟ晴ニ而ハ有之ニ付宿ニ而ハ
宿ゟ過半類焼ニ而ハ有之ニ付宿ニ而ハ
ニ而ハ有之ニ付宿ニ而ハ
同晦日 雨 弥彦宿陣
ゟ通ゟ朝ゟ晴ニ而ハ有之ニ付宿ニ而ハ
宿ゟ過半類焼ニ而ハ有之ニ付宿ニ而ハ
ニ而ハ有之ニ付宿ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

同廿五日朝六ツ半過関山発ス大田切ニ俱実川ヲ渡ル時五ツ半過ヨリ雨ニ成野尻柏原ニ九ツ半頃着菱屋権兵衛ヲ訪ヒ一泊ス

一朝七ツ時頃一ト太鼓打ツヽ各食餉ヲ仕廻ヒ支度ス

一同六ツ時頃二ト太鼓打ツヽ各大小陣羽織ヲ着ス

一屋体ヨリ第七ト太鼓打ツヽ本陣ヲ繰ル事

一行軍ヲ止ル時又繰ル分ハ後ノ第ヲ以テ今ノ通リ事

一同ノ右ヨリ左ヨリ又ハ左ヨリ右ヨリ追ヒ越ス事ヲ不許

一屋体ヨリ第七ト太鼓打ツヽ本陣ヲ繰ル事

一行軍ヲ止ル時又繰ル分ハ後ノ第ヲ以テ今ノ通リ事

一同ノ右ヨリ左ヨリ又ハ左ヨリ右ヨリ追ヒ越ス事ヲ不許

廿四日快晴

朝六ツ半時出発ス三町ヲ登リ若宮寺後ヨリ多賀ヲ経テ井沢ニ泊ス

廿五日快晴

同廿六日快晴

朝六ツ時出発ス三町ヲ下リ花園ヲ過ヒ下ス

廿七日快晴

朝六ツ半時出発ス三町ヲ下リ若宮寺後ヨリ多賀ヲ経テ井沢ニ泊ス

廿八日快晴

同廿九日快晴

同三十日朝六ツ半時井沢ヲ出ヲ碓氷ヲ越ヘ坂本ニ昼食ス

軽井沢ヲ過ヒ追分ニ至リ右ニ折レ中山道ヲ捨テ北国街道嶋ヲ祝砲

三発馬喰ヨリ大久保ヲ経テ大御門ヨリ城内ニ入ル

一隊長ニ告シ　君公、御同見申上学校ヨリ御酒ヲ夫ヨリ番頭宅ヘ

礼ニ参ル頃ヲ度ヒ一同相祝シ夜五ツ過解散宅ヘ　四月二十日当陣ヲ今十月

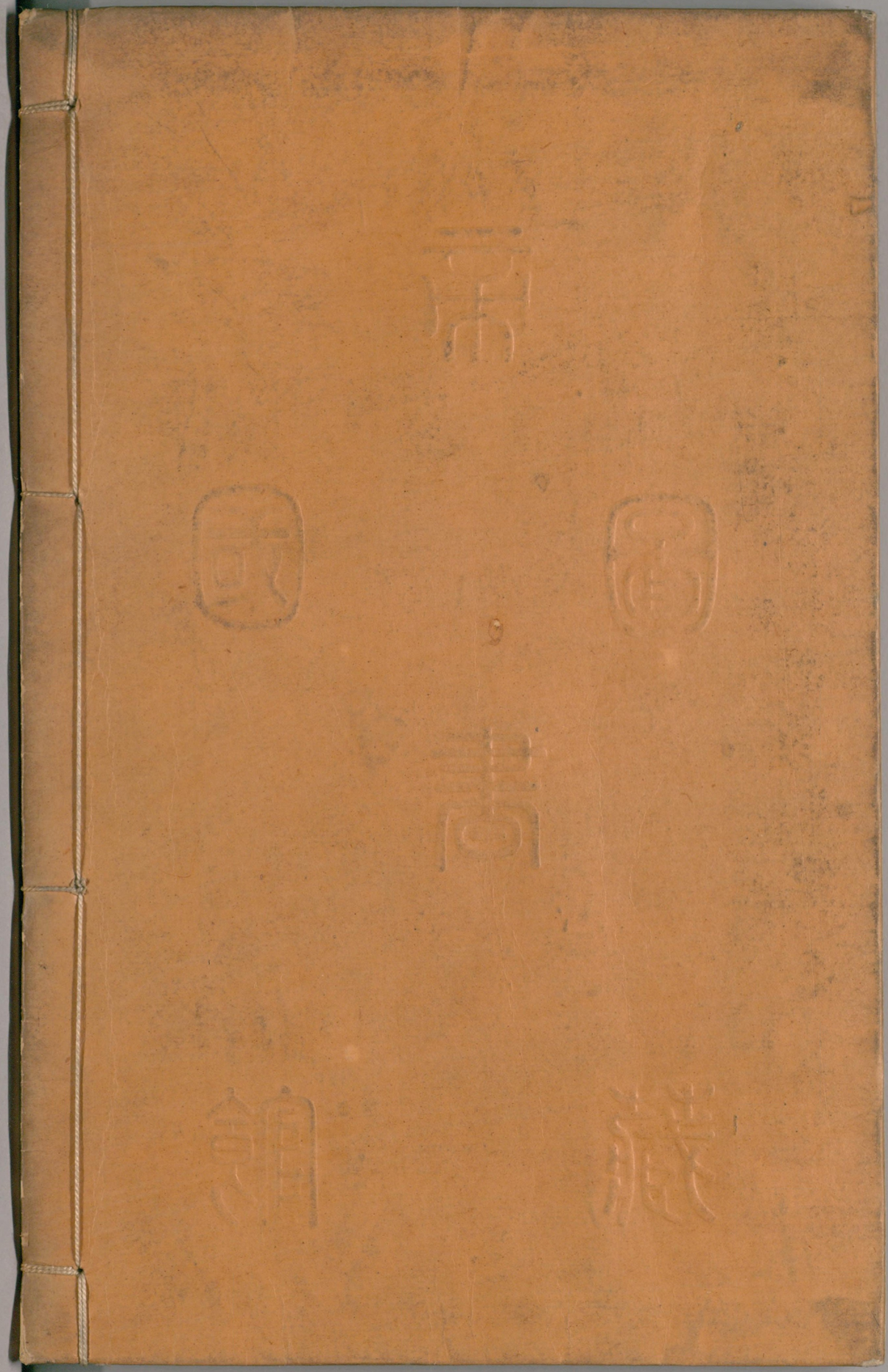
廿九日ニ至計二百十五日ヲ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

836
209
3

国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用